



私たちの 明日への声

ジェンダー平等な未来を再構築するユースたち

未来サミットに向けた調査結果とユースの提言

序文

プラン・インターナショナル、戦略・エンゲージメント最高責任者、Kathleen Sherwin



国連未来サミットは、ジェンダー平等とすべての人にとってより良い世界を実現するために、既存の公約を再確認する、またとない機会である。

この新しい参加型調査は、思春期の女の子とユースの声、そしてジェンダー平等な未来に向けた彼らのビジョンと提言を紹介するものである。彼らのメッセージは明快だ。政策立案者は思春期の女の子の声に耳を傾け、意義深く、包摂的で、力づける形で、彼女たちを意思決定に参加させなければならない。政策立案者は今こそ行動すべきだ。現在のままでは、今の世代の女の子だけでなく、多くの将来世代を取り残すことになるだろう。

サハラ以南アフリカ出身の22歳のMargaretの詩『Whispers of Resilience(レジリエンスのささやき)』は、女の子が世界中で直面する課題を浮き彫りにしている。だがこの詩は、本報告書と同様、レジリエンス、断固とした楽観主義、そして世界を変革するユースの集団的パワーの物語でもある。私たちが共に実現したいと願う未来の不可欠な共同創造者として、思春期の女の子の声を増幅させよう。

Whispers of resilience

運命の残酷な手によって投げられた影の中で、強さと忍耐の物語が展開する。22歳の女の子は、語られることのない夢を抱いていた。

学校に行けず、両親は懇願し、貧困は過酷な命令を下した。残酷な行為、不正義は揺れ動く、しかし彼女の精神は永遠に逞しい。

若き日に結婚を強要され、妊娠は暗い暗闇の中で失われた。合併症が悲しみの潮流を生み、それでも彼女は力強く生き抜く。

失業の掌握、残酷な要求、経済的苦悩、不屈の糸。正義が眠り、不正義が横行し、闇がはびこるコミュニティ。

抑圧下の彼女は、どう立ち上げられるか考え、投げ所を見つけられなかったが、彼女は祝福された、ガールズ版協定、夜の中の光明、分かち合う努力、勇気ある戦い。

2054年、彼女は子どもの明るい世界を夢見ている。教育の扉が大きく開かれ、全ての女の子の夢が歌われる世界を。

彼女は気候の物語を共有したいと切望する、目覚め、配慮を示す世界。心が語られる未来。

彼女の力強い歌声の響きの中で、変革のシンフォニー、希望に満ちた選択、抑圧に抗い、団結して揺れ動く、ガールズ協定の抱擁の中で、明るい一日を。

Margaret、22歳、女性、サハラ以南アフリカ

ユニセフ、ジェンダー平等担当副局長、Lauren Rumble



Fコミュニティでの学校政策決定における発言力から、思春期の保健サービスに関する国家政策、そして持続可能な開発目標(SDGs)に関する地域的・世界的な意思決定に至るまで、思春期の女の子の生活に影響を与える政策決定において、彼女たちの権利、優先事項、ニーズ、経験は、あまりにも長い間、排除されてきた。ユニセフは、この重要な報告書においてプラン・インターナショナルと協力し、思春期の女の子やユースの声に耳を傾け、それに基づいて行動することの重要性を訴えることができ、大変嬉しく思っている。この報告書は、ユニセフが最近実施した女の子の権利に関する、50万人超のユースを対象としたデジタル調査で寄せられた声を力強く補強するものである。教育は、ジェンダー平等を推進し、ユースの身体と権利に関する教育を受ける権利を推進するために、依然不可欠でありながら未成熟なツールであり、科学、技術、工学、数学(STEM)のスキル、デジタルへのアクセス、そしてディーセントで生産的かつ安全な仕事への移行に関しては、ジェンダー格差は許しがたく深刻なままである。健康、特に性と生殖に関する健康と権利(SRHR)へのアクセスは、実現には程遠く、多くの状況で攻撃を受けている。早すぎる、強制された結婚(CEF MU)、ジェンダーに基づく暴力(GBV)、ケアワークをめぐる不平等は依然蔓延

しており、活動資金不足のままである。Margaretの詩は、こうしたジェンダー不平等を悪化させる貧困の重大性についても語っている。

だが、Margaretのように、世界中の女の子は、違う未来のビジョンを描いており、それは実現可能だと信じている。私たちは彼女たちと共に、協力すれば、このビジョンを実現できる。あらゆる形態の暴力、CEF MU、女性器切除(FGM)から女の子が逃れた世界、女の子が活躍できる教育、技能、保健、栄養サービスを受けられる世界、そして女の子が自身の将来について席に着き、発言できる世界。そこでは、彼女たちはただ参加するのではなく、より良い世界に向けた変化の担い手となっているのだ。異なる世界、皆にとってより公正・豊か・安全な世界。そして私たちは、適切な資金と政治的意志をもって、それを実現するのに何が効果をあげるのか、その証拠と経験を持っている。未来サミットで世界の指導者が一堂に会するとき、彼女たちのビジョンを、これを実現するための行動への呼びかけしよう。それは私たちの手中にある。

目次

序文	2
要約.....	4
はじめに.....	7
進む道: 未来の選択	10
希望か絶望か: ジェンダー平等の地平線を見渡す	17
転換期: ジェンダー平等な未来に向けたユースの声	27
政策立案者への提言	31
結論.....	37
付録: 調査方法.....	38
巻末資料.....	40

要約

この報告書は、ジェンダー平等な未来に向けたユースの考え、悩み、アイデア、ビジョン、提言を紹介している。本書は、ジェンダー平等と皆にとって明るい未来を実現するために、私たちがどのような具体的な段階を踏めるかについて、新たな参加型証拠を提示し、十分な情報に基づく議論の土台を提供するものである。プラン・インターナショナルは、今年の国連未来サミット期間中、思春期の女の子とユースの声が鮮明になるよう、世界の全地域を代表する**35カ国超から100人超のユース**を対象に、参加型ワークショップとオンライン調査を実施した。この調査の全体的な目的は、ユースを議論の中心に据え、未来の世界を

形成するためにジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチの必要性を強調することである。この世代のユースが抱える困難や不安は、女の子とユース女性を苦しめ、根強いジェンダー差別、機会の欠如、そしてあまりにも日常的なGBVの経験によって、一層強めている。彼らは何が変わるべきかを知っており、未来サミットは、今日のユースに、彼らだけでなく、未来の世代のために新しい世界を形作るまたとない機会を提供する。

主な調査結果

調査参加者の思春期の女の子とユースは、女の子の権利、機会、幸福を脅かす強固な障壁とジェンダーに基づく差別を懸念している。彼らは、女の子と女性に対する継続的な暴力、CEFMU、質の高い性教育の欠如、ケアワークに対する不平等な責任、職場におけるジェンダー差別を憂慮している。彼らは、権利の後退、極右行動、一部の男性や男の子による変化への抵抗、テクノロジーやインターネットによる新たなリスクを懸念している。ユースは、気候の緊急事態、紛争、不安定な世界において危険を感じ、女の子の権利とジェンダー平等を進展させるための政府の努力が不十分であることにいらだちを感じている。

若い調査参加者は、ジェンダー平等が単なる目標ではなく、社会のあらゆる側面に浸透する現実となり、人種差別や植民地主義、その他の抑圧に根ざしたステレオタイプや偏見が解体されるような未来を望んでいる。男の子が女の子を対等な存在として尊重し、大切にするように育てられ、女の子と女性が暴力やハラスメントを受けず、準備ができれば結婚して子どもを産む、または産まない選択をする自由がある世界。彼らは、包括的な性とジェンダー教育へのアクセスと、教育、職場、政治的リーダーシップの面での平等な機会を望んでいる。

彼らは、人類が地球を大切に、テクノロジーが包摂とカづけのツールとして使われ、デジタル格差を埋め、全ての女の子に活躍の機会を提供する未来を想像している。

ユース調査参加者は、自身の変化を起こせると自信を持っており、意思決定に関わりたいと考えている。世界の行く末を憂いながらも、彼らは未来に希望をもつことを選択した。

- 調査参加者の**75%**が、自身が生きている間にジェンダー平等が達成されると信じている。
- **90%**が、今後30年間でジェンダー平等の大幅な改善に寄与できると考えている。

思春期の女の子とユースは、未来サミットを重要な機会、つまり、多国間システムを改革し、世界的な課題に対応するための既存の公約を再確認し、ジェンダーをこれらの議論の中心的な柱に位置付けるようにする機会だと考えている。

- 調査参加者の**85%**が、サミットがジェンダー平等の大幅な改善に貢献することを肯定的に感じている。

これらの改善は極めて重要だ。

現在の傾向が続けば、今の世代の女の子だけでなく、将来の多くの世代も取り残されることになる。

「気がつけば、私は将来たどり着きたいと夢見ていた場所に立っていました。でも、私がそこで見たのは、単なる個人の願望を上回るものでした。それはジェンダーをはるかに超えたもの、つまり人間性だったのです。一人一人の中にある栄光の可能性を垣間見たのです。この現実には、既存の障壁を打ち破り、未来に花開く無限の機会への道を切り開くための私たちの集団的努力の結果として、私にもたらされたのです。」

Azoo*、21歳、女性、南アジア、ワークショップ

* 調査参加者の氏名は、個人情報保護のため、全て変更されている。

行動喚起

調査参加者の思春期の若者とユースは、政策立案者に要求する

- あらゆるレベルの女子教育、特にジェンダー・トランスフォーマティブで包括的な性教育とデジタルスキルに投資すること
- 意思決定プロセスに、女の子を含むユースを、制度的、有意義、包摂的、力づける形で参加させること
- SDGsと人権への公約を再確認し、誓約を具体的な行動に移し、ジェンダー平等と皆にとってより良い世界を達成するための約束を早急に実現すること

未来を再構築する試みには、ジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチが不可欠であり、思春期の女の子とユースが議論の中心にいる必要がある。

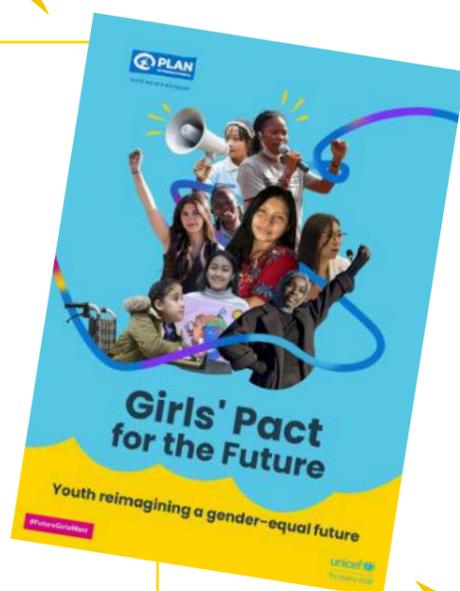
「私の未来は、今私が発する声で決まるのです。どうか、ユースとしての私たちの声に耳を傾けてください。今日の決断が、明日の私たちの生活に影響を与えるのですから。」

Furaha, 16歳、女性、サハラ以南アフリカ、調査

ガールズ版「未来のための協定」

国連未来サミットは、未来に向けた協定、すなわち、今後の挑戦に立ち向かうための具体的な公約を発表する。こうした計画にユースが参加しなければならない。結局、それはユースの未来なのだ。彼らの声が確かに届くよう、この調査の一環として、世界中の15～24歳の思春期の女の子とユースが、世界の現状に対する懸念、ジェンダー平等を核とした前向きな未来のビジョン、そしてジェンダー平等を達成するための政策立案者に対する明確で実行可能な提言を共有する、ガールズ版「未来のための協定。」を作成した。

ガールズ版「未来のための協定」はこちらからダウンロード可能：
https://www.plan-international.jp/activity/pdf/Girls_Pact_for_the_Future_JP.pdf



女の子が欧州議会で発言する、ブリュッセル、ベルギー
© European Week of Action for Girls

はじめに

国連未来サミットでは、「未来のための協定」¹と呼ばれる行動志向の成果文書が作成され、「将来世代に関する宣言」²と「世界デジタル大綱」³が添付され、参加国によって承認され、今後の進め方が概説される。これは、2030アジェンダとSDGsという既存の公約を再確認し、今日と未来の課題により的確に対応するために多国間システムを改革する、千載一遇の機会である。

しかし、ジェンダーをこのような議論の中心の柱に据えなければ、女の子とユース女性が恩恵を受けられない制度を再び生み出す危険性がある。

「未来のための協定」の原案⁴の通り、各国と政府の代表は、現在世代と将来世代を守ることを約束している。ジェンダー平等と女性と女の子の権利は、この文書に特別な章を設けてはいないが、これらの問題は随所で言及されている。この協定は、1995年の「北京宣言と行動綱領」— 今日に至るまで、女性と女の子の権利にとって最も重要な文書 — への公約を再確認するとともに、女性と女の子に対するあらゆる形態の差別と暴力を撤廃し、ジェンダー平等を達成することを謳っている。この文書は、技術開発、紛争解決、国内・国際レベルでの政治機構におけるリーダーシップへの女性と女の子の参加の重要性を強調している。更に、SRHRを含む女性と女の子の人権の実現を、世界の平和、繁栄、持続可能な開発の達成に結びつけている。

現在の位置

世界の女性と女の子の現状は、そうした約束を真に果たすために私たちが直面している課題の大きさを明らかにしている。世界の85%の国々が、ジェンダー平等やSDGsの達成に向けた軌道に乗っていない。その多くは後退している⁵。

- **SDG5の指標はどれも全くまたはほとんど達成されておらず**、他のSDGのジェンダーに関連した指標も大半は達成されていない⁶。
- 最も疎外された人びとを支援し、「誰一人取り残さない」と約束したはずなのに、**加盟国は必ずしも持続的に尽力してきたのではない⁷**。
- 女の子とユース女性は、依然**重大な不平等に苛まれている⁸**。
- 彼女たちはより高い割合で極貧状態を経験し⁹、**教育、雇用、訓練から外れる可能性はユース男性の2倍を超える¹⁰**。
- 教育が進んでいるにもかかわらず¹¹、女の子の高等教育修了率は60%¹²にとどまっておらず、特に疎外されたコミュニティでは、不就学の、読み書きのできない女の子の数は容認できない¹³。**世界全体では、現在1億2,900万人の女の子とユース女性が不就学であると推定されている¹⁴**。
- **GBVは依然根強く¹⁵、CEFMUは何百万人もの女の子の権利と幸福を脅かし続けている¹⁶**。
- **有害なジェンダー規範やステレオタイプは差別を永続させ、特にSRHR¹⁷やテクノロジーへのアクセス¹⁸に関して、女の子の自主性を制限している**。
- 紛争¹⁹や気候変動による異常気象²⁰が増加する中、**女の子の脆弱性は著しく高まっている²¹**。
- 反権利運動が勢いを増し、教育制度、法的枠組み、フェミニズム活動²²が標的にされる中、女性と女の子の権利²³の後退は、**ジェンダー平等の前進に重大な脅威となり、女の子の将来を極めて重要な岐路に立たせる**。

現在のペースでは、ジェンダーギャップをなくすのに
131年かかる²⁴。

António Guterres国連事務総長が『私たちの共通の課題(Our Common Agenda)』²⁵で述べたように、私たちが集団として「何を」達成したいかは明示されている。今こそ世界の指導者は、ステークホルダー(ユースも含まなければならない)と連携し、このような望みを実現するための「方策」を打ち出す時なのである。

ジェンダー平等の未来に関して、多くの有益な報告書、分析、予測が発表されている²⁶。未だ欠けているのは、安全で歓迎される場で発せられたユースの声であり、世界の指導者が真に傾聴し、思春期の女の子とユース女性の未来を最終的に形作る意思決定に情報を提供し、影響を与えるために利用されることである。

この調査プロジェクトは、国連未来サミットをめぐる議論や決定において、ユースの声を最前線に届けることを目的としている。参加型未来手法によるオンライン調査と仮想ワークショップを通じて、100人超のユースが2つの重要な調査項目について考察している。

思春期の女の子とユースは、未来サミットで政策立案者に対し、意思決定プロセスに彼らに参加させ、ジェンダー平等とジェンダー・トランスフォーマティブ・アプローチへの世界的な取り組みを強化するよう呼びかける。

調査方法

本報告書のための調査には、さまざまな方法が用いられた。

- **文献レビューとホライゾン・スキャンニング**。(訳注: 将来、社会に大きな影響をもたらす可能性のある変化の兆候をいち早く捉えるために、利用可能な情報を体系的・継続的に収集・分析し、潜在的なリスクや可能性を把握する活動のこと)
- プランのユース・ネットワークおよびユニセフのGlobal Girls Advisory Groupのメンバーである、世界各地の15~24歳の124人を対象とした**オンライン調査**。
- プラン内の複数のユースグループから44人のユースが参加し、3時間の**オンライン・ワークショップ**を5回開催(ユース男性7人、ユース女性37人)。この過程で、世界中の政策立案者への重要なメッセージと提言を盛り込んだ**ガールズ版「未来のための協定」**を起草した。
- **ガールズ版協定検証ワークショップ**に、世界の全地域から15~24歳のユース34人(女の子とユース女性30人、男の子とユース男性4人)が参加。

調査方法は、参加型かつ協働的なもので、ユニセフの『Youth Foresight Playbook: Designing a Youth-centred Journey to the Future』に従い、調査参加者のユースによって共同設計・共同実施された。参加者全員から同意を得、18歳未満は保護者の同意を得た。氏名は全て変更されている。

より詳細な調査方法は**付録**を参照のこと。

- このまま傾向が続けば、思春期の女の子とユース女性の未来はどのようなのか
- 思春期の女の子とユース女性の未来にプラスの影響を与え、ジェンダー平等を前進させるために、世界の指導者はどんな具体的な一歩を踏み出せるのか

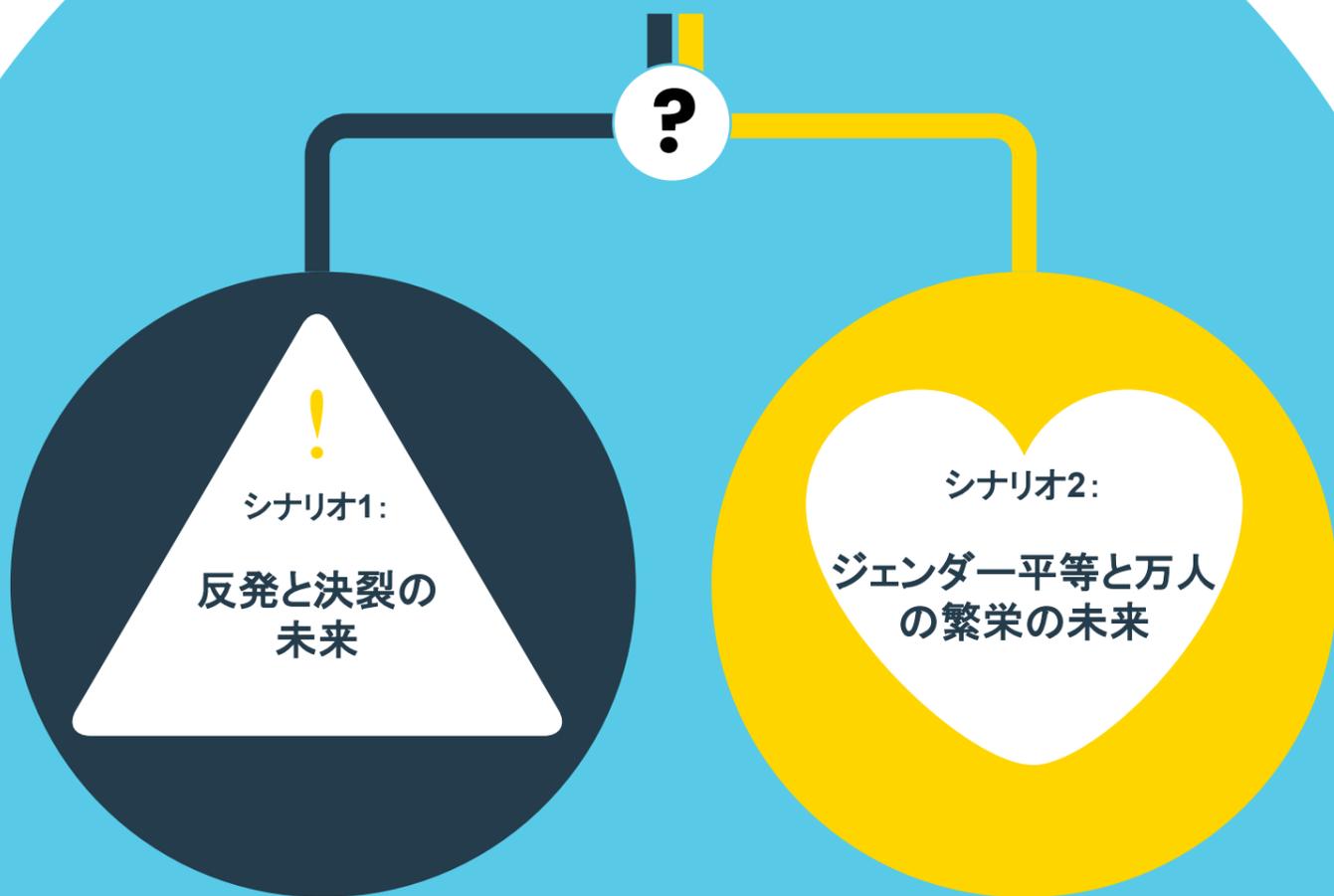
本報告書とそれに付随する**ガールズ版「未来のための協定」**は、上記の問いに対するユースの集団的回答である。本書は、現在の傾向に基づく未来の潜在的なシナリオを議論し、彼らがどんな未来を望んでいるかを描き、世界がそれに到達するにはどうすべきかを提言している。

進む道：未来の選択

どんな未来が来るかは誰にもわからない。だが、世界の現状とジェンダー問題や女の子の権利をめぐる最近の変化から、人類は岐路に立っていると、ユースは考えている。現在の負の傾向が続けば、次世代の女の子は重大な反発に遭い、それが社会全体に波及する。しかし、思春期の女の子とユースは、現状に遥かに明るい未来の種が既にあり、育成すれば、皆に多大な利益をもたらすジェンダー・トランスフォーマティブな未来につながる可能性があることを理解している。

目下進行中の変化の意味を考察し、新たな傾向を調査することで、未来の姿が明らかになる：それは常に今日の選択にかかっている。本報告書の調査の一環として、対立する可能性を検討し、2つの多様な青写真を作成するため、ワークショップの参加者は、現在の発展をもたらす可能性のある結果を探求する一連の「未来の輪(Futures Wheel、訳注：意思決定やアイデア探索のツールとしても使用される。アイデア、変更、または決定をもたらす影響をブレインストーミングし、それらの影響の組み合わせによる効果を探るために使用される。)」を作成した。ユースは、希望に満ちた道筋と絶望につながる道筋を見極めた。

世界のリーダーとして、あなたはどちらの未来を選ぶか



シナリオ1: 反発と決裂の未来

▲ 各地で反権利運動が目立つ中、学校ではジェンダー教育や性教育が禁じられつつある。女の子も男の子も、思春期の身体の変化に対処する方法を学ぶことはもはやない。それどころか、自身の身体、思春期に関する知識をネットで求めるたびに、誤情報の犠牲者となっている。早期に妊娠し、性感染症(STI)にかかる女の子やユース女性が増えている。その結果、彼女たちは家族、コミュニティ、友人関係の中でスティグマに遭い、中途退学する可能性が高くなる。支援がなく、適切な保健医療サービスを見つけるのに苦慮し、親密なパートナーからの暴力(IPV)や貧困の影響を受けやすくなる。

「もし女性が教育を受けられなければ、彼女たちは政治的な力を持つことができず、彼女たちのニーズは扱われないでしょう。だから、意思決定者や政治家から抑圧を受けることになるのです。」

Emily、22歳、女性、サハラ以南
アフリカ、ワークショップ

「(女の子がソーシャルメディアで発言すれば)その内容で荒らされたり、いじめられたりするでしょう。社会はそういうことを受け入れる準備ができていないから。もし彼女たちがソーシャルメディアから離れなければ、私生活や精神衛生、そして教育にも影響が出るでしょう。」

Kunal、22歳、男性、
南アジア、ワークショップ

▲ その反発は法律にも及び、FGMのような有害な慣習は世界中で再び容認され、伝統的指導者の間に共同体意識を生み出している。中絶はどんどん犯罪化され、危険な中絶と思春期の妊娠の両方による死亡率が上昇している。GBVIに対する保護法制は消滅し、または弱体化し、暴力の連鎖は家庭でも公共の場でもエスカレートし続け、女性殺害と孤児の数を増加させている。有色人種の女の子やレズビアン、バイセクシュアル、トランスジェンダーである女の子は、高い差別と暴力のリスクに直面している。生き抜くことができた女性や女の子は、精神的な健康や幸福を大きく損なう。彼女たちはますます力を失い、公共の場での恐怖を強めている。声を上げることもほとんどない。

▲ 一部の女の子とユース女性は、ジェンダー平等と暴力から女性と女の子を守るためのキャンペーンをソーシャルメディアを使って行おうとしている。だが、彼女たちが声を上げれば上げるほど、ネット上での虐待や嫌がらせのレベルも上がっていく。脅迫の激しさは、家族やコミュニティからの辱めや政策立案者からの公的な攻撃と相まって、彼

女たちの精神衛生に大きな影響を与え、ソーシャルメディアから離れ、自身の権利の擁護をやめさせる。このことは、負の社会的信条を強化し、女の子のネット利用を更に抑制し、ジェンダー・デジタル格差を拡大する。

▲ **女の子の声はもはや聞こえない。** 政策やテクノロジーの設計から、それが欠落している。新しいプログラム、サービス、ツール、機器の開発には、女の子のニーズ、経験、嗜好が反映されておらず、新しい世代が社会的、デジタル的に取り込まれるのを継続的に妨げている。

ジェンダーに関わる公的な討議なしに、社会は女の子と女性を家庭内の役割に矮小化させる。彼女たちは、無報酬の世話や家事労働でますます燃え尽き、批判的思考を学び・行使する機会を得られず、パートナーや政治家、メディアに操られやすくなる。

▲ 反権利と反民主主義の思惑が重なるため、内外の紛争は世界中でエスカレートしている。貧困、不平等、不安定性の増大は、紛争の武器として使われる女性と女の子への性暴力を含む、あらゆる形態のGBVを増加させる。特に、女性が世帯主である場所では、女性や女の子が標的にされ、家族やコミュニティ全体が不安定になる。気候変動のホットスポットが急増する中、状況は一層悪化している。

「紛争と気候変動は貧困につながります。貧困が拡大すれば、経済的負担を抱える家庭も出てきます。多くの親は、経済的問題を解決するために、子どもを幼いうちに結婚させようと決意するでしょう。」

Catherine、年齢不詳、女性、サハラ以南アフリカ、ワークショップ

▲ 公共の場で、女性と男性、女の子と男の子の間に物理的な障壁を設けることで、男性の不適切な行動に対する非効率的な保護手段を用いている国もあるが、これは増大する問題への不十分な対応である。緊急事態が増加する中、政府は女の子特有のニーズを軽視し、保健や教育への投資を控え、国民の単に生存を保証することに重点を置いている。学校へ行くことは、特に女の子にとって危険な努力となっており、その悪影響は世代を越えて広がっている。

▲ 現地や世界の厳しい状況を考えると、大半の女性はもはや子どもを産みたくはないが、選択の余地はない。妊娠・出産を余儀なくされた女性は、一人で子育てをする—男性は家庭を捨てるか、紛争地に派遣される。子どもはより貧しく、不安定で暴力的な環境で育つ。人口の増加は環境への負荷を高める。

▲ 困難な状況に直面して、家族や女の子自身はCEFMUを最終手段とするようになる。大人のパートナーに金銭的には依存し、思春期の女の子は家事、家庭内暴力、トラウマ、早期の妊娠、保険医療サービスへのアクセスの欠乏、高い産婦死亡率を経験する。

彼女たちの健康や生命がリスクにさらされるだけでなく、彼女たちの子どもたちもまた同じで、貧困や低栄養で脆弱となり、CEFMUを経験することになりうる。

▲ 質の高い教育を受けられず、技術面でも遅れをとっているため、女の子は批判的思考を養い、ネット情報や代替学習プラットフォームにアクセスするのに苦闘している。仕事を見つけたり、キャリアを積んだりすることは更に難しくなり、その結果、貧困レベルが上昇し、男性家族やパートナーへの経済的依存が高まり、家族の資源や優先事項に対する決定権が低下し、GBVIに対する脆弱性が高まる。彼女たちの交流の輪は、家族や地元の友人など、より小さな集団に限られるようになり、公共生活、革新、気候変動対策や平和構築への貢献などへの関心や参加する力はますます薄れていく。悲しいことに、女性や女の子は偽情報を流したり、反民主的で反権利的な言説を再生産したりするようになり、それが自身や将来の世代にとって危険であることに気づいていない。

「全ての女性、全ての人がオンライン・ネットワークについてもっと知らなければならぬ時代に移行しているのだから、このテクノロジーに素早く適応しなければなりません。デジタルリテラシーがなければ、女性の低所得者層が増えます。彼女たちはより(経済的に)依存するようになり、GBVが増えるでしょう。」

Aadila、24歳、サハラ以南アフリカ、ワークショップ

▲ 暴力的な家庭から逃れようと、移住を余儀なくされ、移住先で**仕事、住居、食料、教育、医療へのアクセスを阻まれる**女性や女の子もいる。その結果、性的搾取や人身売買が増加する。





シナリオ2: ジェンダー平等と万人の繁栄の 未来



空手の指導をする12歳の女の子、バングラデシュ
© Plan International / Ziaul Haque

「素晴らしい世界が私たちを待っています。皆が何の障害も、不平等もなく、何でもやっています。誰も彼らを批判しない。そこではあらゆるジェンダーが平等です。皆が政治、社会開発、文化部門、教育などあらゆる分野に参加しています。」

Aarav, 21歳、男性、南アジア、ワークショップ

♥ ジェンダー・トランスフォーマティブで質の高い教育への多大な投資と、全てのレベルの教育を修了する女の子の数の持続的な増加が相まって、女の子の生活のあらゆる分野でプラスの効果を生んでいる。CEFMUIはいたるところで急速に姿を消し、女の子も男の子もSRHRについて学ぶため、早期妊娠率は大幅に減少する。女の子は遊び、社交し、自身の身体と性を理解し、自律性と自尊心を育む時間が増える。大人になれば、母親になるのか、いつなるのかを選択できるようになる。その結果、彼女たち自身とその子どもに身体的・心理的なメリットが生まれ、子どもは保護者よりも更に高いレベルの教育を受けることができる。

♥ 男の子と女の子が幼い頃からジェンダー平等を学ぶことで、家庭、学校、通り、ネットがより安全になり、精神的な健康を享受できるようになる。自分らしくいること、夢を見ること、公共スペースを占有することの自由を、女の子はかつてなく感じる。

「もし女の子が性と生殖に関する健康(SRH)について学べば、妊娠の数は減少し、自分の時間を持ったより幸せな女の子が増えるでしょう。」

Sofia, 17歳、女性、ラテンアメリカ・カリブ海地域、ワークショップ

♥ 有害なジェンダー規範は後退し、ジェンダー平等への変化は加速した。無意識の偏見がなくなり、「強力」、「強い」、「自信」、「力づけられた」といった言葉が、女性や女の子と結びつきやすくなる。これは、ジェンダー平等が女性や女の子と同様に恩恵をもたらすことを、男性や男の子が理解するようになったおかげでもある。男の子と男性はありのままの姿でいられるようになり、もはや

有害な男性性像に縛られたり、稼ぎ手というステレオタイプに制限されたりすることはない。更に、リーダー、革新者、起業家としての女性や女の子の貢献の価値も認識される。今日では、女性も男性も、女の子も男の子も等しく責任を分かち合い、真のチームとして一緒に働いている。

♥ STEM、デジタルリテラシー、AIの習熟が学校の教育課程で重要な要素となっているため、女の子はネットに自信を持っている。彼女たちはネット上で良質な情報に無料でアクセスし、強力なコンテンツ制作者やデジタル・インフルエンサーとなっている。彼女たちのジェンダー平等活動によって、女の子やユース女性の間で姉妹意識が高まっている。彼女たちは、語られない問題に光を当て、重要な会話を始め、いかなる形態のGBVも特定し、発生時に報告する。鼓舞された世界中の女の子は、コミュニティで活動を展開する。彼女たちの声は家族やコミュニティ住人に認められ、社会規範やジェンダー規範の前向きな変化を促す。

「ソーシャルメディアのインフルエンサーから有益なことを学べることもありますが、教師はそのようなことは話しません。時には、学校で習う内容よりも役に立つこともあります。女性の経験や、女性同士が経験を共有し、ネット上での連帯感、コミュニティや姉妹関係のようなものを築くことに、より注目が集まっています。」

Fatima, 22歳、女性、中東・北アフリカ、ワークショップ



21歳のユース女性、エンジニアリング技術を学ぶ、ケニア
© Plan International

この恵まれた環境下で、ユース女性は自由に職業を選択し、絶好の雇用機会を得る。彼女たちは生産的かつ効率的に仕事をこなし、順調にキャリアを積んでいる。経済的にも力づけられ、資源を平等に所有している。より高い大学レベルの学位を取得し、テクノロジー、グリーンジョブ、政策立案、平和構築の分野で働くことが支援されているため、彼女たちは仕事の自動化を恐れていない。更に、皆の幸福と繁栄を促進するために、テクノロジーはますます発展している。



18歳の活動家、スイス © Plan International / Antoine Tardy

多様な背景を持つ女の子と女性が、以前は男性が支配していたスペースでリーダーシップを発揮し、平等に意思決定の地位を占めるようになったことで、彼女たちのニーズ、経験、関心、嗜好をよく考慮した政策、サービス、実践が行われるようになった。

「(指導的立場にある女の子は)負のジェンダー規範の常態化に挑戦し、ジェンダー問題の単純化を押し戻すのです。」

Hanna、20歳、女性、サハラ以南アフリカ、ワークショップ

気候変動による逆境に直面しながらも、女性と女の子は最前線でコミュニティを支え、連帯を強め、一致団結して困難を乗り越える。彼女たちの努力によって、自然と人類は次第に共存するようになる。同様に、彼女たちは平和構築の取り組みを主導することで成功を収め、世界はかつてなく真の解決に向かう。より優しく、より安全で、より幸せで、より緑豊かで、より平等で、より豊かで、より人道的な世界が台頭しつつあり、あらゆるジェンダーがこの悲願の現実を大歓迎する。

「私は、セクハラだらけの世界に対峙する必要がなく、幸せそうな女の子と、犠牲を払うのではなく、自分が人間であり、一人一人から守られるに値する正義を持っていることを知っている女の子を見ました [...]。教育を受けた女の子。教育を乞う必要のない女の子。私がした、いや、しているように。保護者のこと、経済状態のこと、自分の生き立ちで悩むことなく、若くして多くの変化を遂げた女の子。私たちを尊重する私たちの国、あるいは私たちの世界に属していることに喜びを感じ、幸せである女の子。」

Emily、22歳、女性、サハラ以南アフリカ、ワークショップ



希望か絶望か:ジェンダー平等の地平線を見渡す

思春期の女の子とユースがこうした異なるシナリオを描けるのは、現在の複雑さを見つめる能力があるからだ。彼らの周りには、全く異なる2つの未来の種が存在している。彼らは地平線上に、不安要因と希望要因の両方を見ることができる。



不安要因

紛争や異常気象、権利の後退、女性や女の子に対する暴力や有害なジェンダー規範の永続性は、思春期の女の子やユースにジェンダー平等の将来について深い不安を抱かせる。

調査参加者のユースが示した心配は、他の調査や研究データでも明らかに裏付けられている。

紛争と異常気象

思春期の女の子とユースは、気候変動と世界中の紛争、不安の増大が、ジェンダー平等への憂慮すべき障壁であると考えている。彼らは、紛争の状況下で女性と女の子の権利が優先されなくなることを心配し、紛争と自然災害が女の子と女性の安全と幸福に及ぼす悪影響を強調している:脆弱性を高め、暴力と搾取を増やし、サービスと教育へのアクセスを減らし、精神衛生に影響を及ぼす。

事実関係

- 紛争下で暮らす女性と女の子の数は、2017~22年にかけて50%増加した²⁷。
- 紛争や紛争後の環境では、ユース女性はレイプ、人身売買、拷問、強制労働の危険に直面するだけでなく、IPVや家庭内暴力、性的搾取や人身売買、FGMのレベルも高まっている²⁸。
- CEFMUの3分の2は、子どもが毎年2回以上の異常気象に見舞われる地域で発生している²⁹。
- 危機的状況にある女の子は、そうでない女の子に比べて約2.5倍も不就学の可能性が高い³⁰。

「紛争、自然災害の発生は、ジェンダー平等と女の子の権利の進展にとって重大な懸念です。そのような状況において、女性と女の子は頻繁に脆弱性の高まりを経験し、不平等な影響を受けます。性暴力、搾取、移住を含む暴力のリスクが高まるかもしれません。保健医療、教育、保護などの必要不可欠なサービスへのアクセスは著しく妨げられ、ジェンダー不平等を一層悪化させる可能性があります。」

Betty、25歳、女性、サハラ以南アフリカ、調査

権利の後退

思春期の女の子やユースの参加者の多くは、権利の後退や極右運動の台頭が将来のジェンダー平等の進展を妨げることを懸念している。彼らは、若い世代がジェンダー平等について否定的な見解を示すようになり、政府が「反権利」「反ジェンダー平等」の姿勢をとるようになっていくことを指摘している。

「政府は宗教と“家族の伝統”を濫用し、私たちの権利を抑圧し、反権力的なプロパガンダを推進しています。」

Remy, 22歳、ノンバイナリー、
中東・北アフリカ、調査

事実関係

- ▲ 2013～17年の間に、ジェンダーを考案物とし、伝統的で有害なジェンダー役割を推進する反ジェンダー運動は、世界で37億ドルの資金を獲得した³⁵。
- ▲ 世界各地で、保守的なアクターは、いわゆるジェンダー思想が家族、結婚、宗教といった制度を破壊するとして、女の子や女性の権利に関する法律や政策にジェンダーという言葉を使うことに反対している³⁶。
- ▲ 最近、女性や女の子のSRHRやLGBTQI+の権利を標的にした権利剥奪法案が各国で可決された³⁷。



手のクローズアップ、バラグアイ© Plan International

ジェンダー平等への政府の取り組みが不十分

ユースは、ジェンダー平等推進のための政府の行動に強い不満を抱いている。ジェンダー平等関連の政策があっても、それを実施するための努力が限定的、あるいは調整が不十分なのだ。

「公共政策がジェンダー的側面やGBVとの闘いを考慮するまでに至っていないという事実は、ジェンダー平等の進展を心配させます。」

Brenda, 23歳、女性、サハラ以南アフリカ、
調査

事実関係

- ▲ 1997～2020年の間に、各国政府は性に関する健康と家庭内暴力に関する423の国内法を実施または改正し、国連女性差別撤廃条約の勧告の46%に従った³¹。
- ▲ データがある国の50%超が、ジェンダー差別を禁止する法律を制定していない³²。
- ▲ 45%の国が、同一労働同一賃金の必要性を定めていない³³。
- ▲ 60%の国には、同意の上でのレイプを定義する法律がない³⁴。

GBV、セクシャルハラスメント、人身売買

女性や女の子に対する暴力、セクシュアルハラスメント、GBVが根強く残っていることを、ユースの回答者は深く憂慮しており、将来のジェンダー平等の達成に対する確信が持てなくなっている。また、名誉殺人、女性殺害、武装勢力への強制徴用、強制労働、人身売買を特に懸念しているユースもいる。

「家庭内暴力、セクシャルハラスメント、人身売買を含むGBVは、依然世界中で蔓延しています。このような暴力は、女性と女の子の権利を侵害するだけでなく、彼女たちが恐怖や差別から解放されて生きる能力をも損ないます。」

Mira, 24歳、女性、中東・北アフリカ、調査

事実関係

- ▲ 結婚またはパートナー関係にある思春期の女の子の4人に1人が、親密なパートナーからの身体的・性的暴力を少なくとも1度は経験している³⁸。
- ▲ 現在、世界で10億人超の女性と女の子(26%)が、国内法による家庭内性暴力に対する保護を受けていない³⁹。
- ▲ 2022年、国連は女性と女の子を標的にした意図的な殺害が世界で8万9,000件発生したことを記録した。これらの殺人のうち55%は、現在または過去の親密なパートナー、あるいは被害者の身近な人物によるものであった⁴⁰。
- ▲ 主に性的搾取を目的とした人身売買の被害者の60%は女性と女の子である。女性の被害者は、男の子や男性に比べ、人身売買の際に深刻な暴力を受ける可能性が3倍高い⁴¹。

有害な規範と慣行

ユース調査参加者は、女性や女の子の参加、経済的機会、社会的地位を制限するものを含め、世界中に負のジェンダー規範が根強く残っていることを懸念している。彼らは「有害な文化的規範」「文化的・宗教的認識」「伝統」「慣習」が根強く残っていること、そしてCEFMUやFGMが永続していることを憂慮している。

「ジェンダー平等、女の子の権利、フェミニズムの概念を誤解している男性がいることに気づきました。彼らは女性が男性と戦おうとしていると思い込んでいて、それは憂慮すべきことです。」

Julie, 23歳、女性、サハラ以南アフリカ、調査

「先住民のコミュニティでは、伝統、信念、習慣、道徳のためにジェンダー平等が禁じられていたりします。」

Adea, 20歳、女性、サハラ以南アフリカ、調査

「CEFMUとFGM。一部の部族では、いまだに早期の女の子の結婚が行われており、妊娠した女性は教育を受けられません。これが解決されない限り、私たち女性の権利は侵害されたままです。」

Yihana, 20歳、女性、中東・北アフリカ、調査

また、ジェンダー平等への取り組みからの排除を感じる男の子や男性からの反発を指して、「緊張」、「戦い」、「ジェンダー戦争」と表現するユースもいる。

事実関係

⚠️ 世界の成人人口のほぼ90%が女性に対して負のイメージを抱いている。50%の人が女性よりも男性の方が優れた政治指導者であると信じ、40%の人が女性よりも男性の方が優れた企業経営者であると信じ、25%の人が男性が妻を殴ることは正当化されると信じている⁴²。

⚠️ 多くの国で、ジェンダー平等政策に対する男性の抵抗が高まり、広がっている⁴³。

⚠️ 世界中で2億3,000万人超の女の子と女性がFGMを受けている⁴⁴。

⚠️ 20~24歳のユース女性の5人に1人が、18歳未満で結婚している⁴⁵。

子どもを抱く17歳の女の子、メキシコ© Plan International

質の高いジェンダー・性教育へのアクセス制限

ユースは、包括的な性とジェンダー教育がジェンダー平等を達成し、女の子の権利を進展させる鍵となると考えているが、学校でそのような内容を含める政府の取り組みの欠如を深く憂慮している。また、現在の教育課程において、有害なジェンダー規範やステレオタイプ、男の子が女の子より優れているという認識が助長されていることも懸念している。ジェンダー・トランスフォーマティブ教育の実現には、程遠いようである。

「(私の国では)10代の妊娠を防ぐことを目的とした学校での包括的性教育に関する法律が、最近否決されました。」

Valentina, 21歳、女性、ラテンアメリカ・カリブ海諸国、調査

事実関係

⚠️ 反権利運動が主導する政策、法律、請願書は、包括的性教育を標的にし、学校がジェンダー平等、ジェンダーの多様性、SRHRについて教えることを禁止している⁴⁶。

⚠️ 15~49歳の既婚女性の44%が、現在、SRHRに関して自分自身で選択することができない⁴⁷。

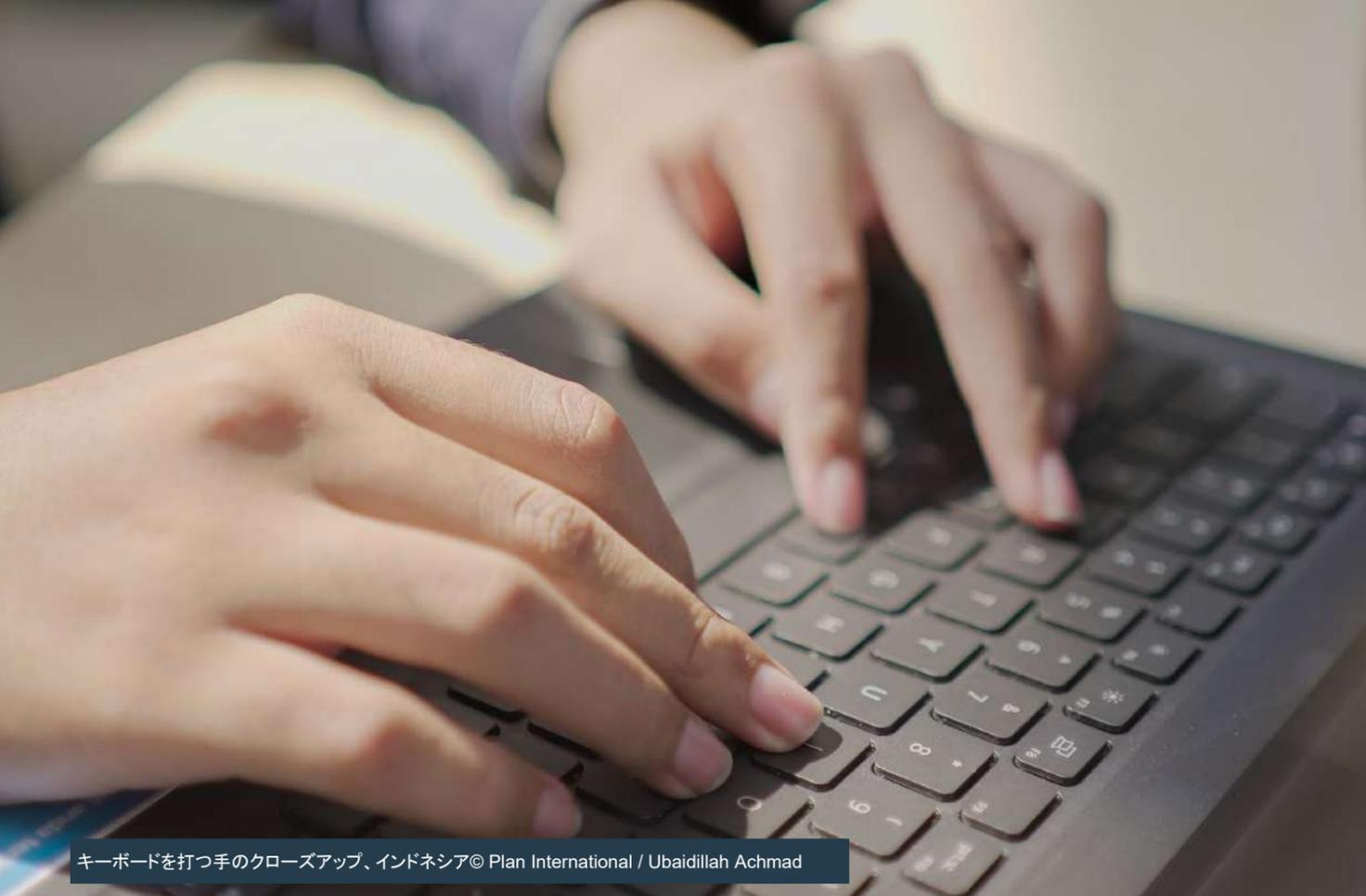
⚠️ 10代の妊娠と出産は、依然、15~19歳の女の子の死因の第1位である⁴⁸。

⚠️ 現在、思春期の若者の新規HIV感染の80%は、思春期の女の子が占めている⁴⁹。

⚠️ 性器疣贅や子宮頸がんを予防する上で重要なヒトパピローマウイルスの予防接種を受けている思春期の女の子は、わずか15%しかない⁵⁰。

「全ては、今日でも男の子に与えられている教育から始まります。[...]彼らは自分を小さな神だと信じ、幼い頃から既に姉妹を彼らより劣った存在だと見なすのです。これは私の唯一にして最大の関心事です。なぜなら、未来の男性である男の子にも、自分たちが女の子/未来の女性と対等であることを認識させ、彼女たちを一人の人間として見るように教育しない限り、何も変わらないからです。」

Jemila, 21歳、女性、サハラ以南アフリカ、調査



キーボードを打つ手のクローズアップ、インドネシア© Plan International / Ubaidillah Achmad

オンラインリスクとデジタル格差

ユース参加者は、ソーシャルメディア上の反権利的な言葉やジェンダー平等に関する誤情報、ネット上でのボディシェイミング、オンライン・ハラスメント、AIが生成したポルノなど、テクノロジーの変化やデジタルリスクを懸念している。デジタル格差もまた、ジェンダー不平等を悪化させる要因である。

「サイバースペースは虐待の温床となり得、女の子が自由に自分を表現したり、ネットに参加したりする意欲を失わせます。」

Nala, 20歳、女性、サハラ以南アフリカ、調査

事実関係

- ⚠️ 女の子のスマートフォンの非保有率は、男の子の1.8倍にもなる⁵¹。
- ⚠️ 世界の若い女の子の半数超(52%)がオンライン虐待を経験しており、そのほとんどがソーシャルメディア(68%)であり、87%がこれは更に悪化すると考えている⁵²。
- ⚠️ 「リベンジポルノ」の被害者の約90%は女性と女の子である⁵³。
- ⚠️ 誤情報や偽情報のせいで、女の子の4人に1人はオンラインで自身の意見を発信する自信がなくなり、5人に1人は政治や時事問題への関与をやめている⁵⁴。
- ⚠️ 世界の74%の国において、法執行機関と裁判所は、デジタル被害への効果的な対処が不十分である⁵⁵。

事実関係: 憂慮すべき未来予測

この傾向が続き、国連未来サミットでの変革の機会を逃せば、反発と決裂の予測が現実のものとなりかねない。国連やその他の機関が確率論的手法を用いて行った、今後数十年間の予測は以下の通り。

- ⚠️ 現在のペースでは、「経済参加と機会」、「教育達成」、「健康と生存」、「政治的力づけ」の各分野におけるジェンダー格差を解消するのに131年要する⁵⁶。国会でジェンダー平等を達成するのに47年、職場の指導的地位でジェンダー平等を達成するのに140年、法律におけるジェンダー差別を撤廃するのに286年、CEFMUの慣行を撤廃するのに300年かかるだろう⁵⁷。
- ⚠️ 2030年には、女性と女の子の25%が中程度から高水準の食料不安に見舞われ、世界の女性と女の子の8%が極貧の状態に置かれることになる⁵⁸。世界のほぼ3分の1の国では、極貧の状態が11%になると予測されており、これはSDGsが採択された2015年と同程度の高さである。
- ⚠️ 1億1,000万人の女の子が不就学となり⁵⁹、約22%の女の子が依然、家族計画にアクセスできない。COVID-19パンデミックのため、2030年までにCEFMUの対象となる女の子は1,000万人増えるだろう⁶⁰。
- ⚠️ AIや自動化、ロボット工学、グリーンエコノミーにより2,400万の新たな「未来の仕事」⁶²が創出されると予想されているが、STEM分野での女の子と女性の持続的な存在感の低さとデジタル格差の拡大により、女の子とユース女性は雇用機会が減少し、労働市場への参加に余計な障壁を経験することになるだろう⁶¹。
- ⚠️ 2030年までに、女の子の60%が少なくとも1回の異常気象を経験し、毎年、中低所得国の女の子1,250万人が、気候変動関連事象により教育を修了できない恐れがある⁶³。3,200万人超の女の子が、深刻で頻発する気象事象、深刻な貧困、CEFMUの最も高いリスクの影響を同時に受ける場所で生活することになる⁶⁴。
- ⚠️ 2050年まで、有害なジェンダー規範は存続し、女性は職場の管理職の30%しか占めず、政治におけるジェンダー平等には程遠く、無報酬の世話や家事労働に費やす時間は男性より1日2.3時間多い⁶⁵。
- ⚠️ 都市部の女性人口の30%が、スラムや非公式な環境で暮らすと推定されている。気候変動の軽減策と適応策が十分に採用されなければ、新たに1億5,800万人の女性と女の子が貧困に、2億3,600万人が食料不安に追い込まれることになる⁶⁶。
- ⚠️ CEFMUと異常気象の両方のリスクが最も高い国に住む女の子は、30%増えるだろう⁶⁷。
- ⚠️ 大半の未来予測では、世界の環境移民は2億人程度になると予測されているが、環境変化から逃れるために国内外を移動する人の数は10億人に達すると指摘する予測もある⁶⁸。
- ⚠️ 資源の欠乏はまた、紛争と地政学的不安定を一層悪化させ⁶⁹、女性と女の子がIPVやその他の形態のGBV⁷⁰を経験する機会を増やし、彼女たちの権利が優先事項として見なされなくなるようになる⁷¹。





希望の理由

データ予測もユース参加者の地平線探査も暗い未来像を描いているが、もっと希望に満ちた指標もある。女子教育やリーダーシップの進歩、ジェンダー平等に関するキャンペーンやプログラムは、思春期の女の子やユースをジェンダー平等の未来に対して楽観的にさせている。政策立案者が彼女たちを支援し、ジェンダー平等への公約を行動に移せば、ユースは世界を変革する力があると、彼らは信じている。

女の子の教育へのアクセス向上

ユース参加者は圧倒的に、女の子の教育へのアクセスが増えることに肯定的である。教育へのアクセスが改善されることで、女の子の経済的な力づけが促進され、より良い仕事の機会やキャリアアップにつながると考えられている。教育はまた、ジェンダー平等や女性と女の子の権利に対する認識を高める鍵であるとも考えられている：こうした内容が学校でより議論されるようになったことと、女の子の識字率と批判的思考が高まるにつれて、ジェンダー規範の認識が変わってくるからである。

「幅広い分野で教育を受けようとするユース女性や女の子が増え、自身の権利は侵害されてはならないと理解してきています。ゆっくりですが、そうなってきています。」
Remy, 22歳、ノンバイナリー、中東・北アフリカ、調査



事実関係

- 世界的に、女の子は男の子よりもどの教育レベルでも修了率が高く、学習成果の向上も早い⁷²。
- 2015年以降、世界全体で5,000万人超の女の子が就学している。また、初等教育から高等教育までの各段階を修了した女の子の数も500万人増加している⁷³。
- 中等教育を修了した女の子は、CEFMU、早期妊娠、母子死亡、発育阻害のリスクが低く、生涯所得が増加する可能性が高い⁷⁴。



2023年国際ガールズデーに向けたGirls' Takeover Initiativeの一環として、国会議長を引き継いだ、東ティモールの16歳の女の子がインタビューを受けた。
© Plan International

指導的立場にある女性と女の子

ユース参加者はまた、リーダーシップ、政治、意思決定における女性や女の子の存在感が増していることを、未来への刺激的な傾向だと考えている。彼らは、女性の政治参加を増やすために自国で可決された法律や、プラン・インターナショナルのGirls Takeoverキャンペーンのような女の子のためのプログラムの例を挙げている。

「政治、ビジネス、学界など、さまざまな分野で指導的地位を占める女性が増えています。こうした女性代表の増加は、未来の世代のロールモデルとなるだけでなく、ステレオタイプや伝統的なジェンダー役割への挑戦にも役立っています。」

Yana, 24歳、女性、中東・北アフリカ、調査

「(自国の)Girls Takeoverキャンペーンに参加する機会を得ました。あの年齢で、1日大使という大きな役職を引き受け、大きな機会は男性や特定のジェンダーのためにあるのではなく、皆のためにあるのだと気づかされました。ジェンダー平等への変化は、一人の女性または女の子から始まるのだと気づきました。」

Mariam, 24歳、女性、中東・北アフリカ、調査

「私の国は、3分の2ジェンダールールを制定し、国民議会や官民のあらゆる場において、女性が様々な役職に指名されることを認めています。」

George, 24歳、男性、サハラ以南アフリカ、調査

事実関係

- 世界では、地方自治体の議席の35.5%、国会の議席の26.7%、職場の管理職の28.2%を女性が占めている⁷⁵。
- 世界31カ国で女性が国家元首または政府首脳となっている⁷⁶。
- プラン・インターナショナルの調査では、2万9,000人の女の子とユース女性の97%が、政治参加は重要だと考えている⁷⁷。
- 女の子とユース女性の50%が、彼女たちのコミュニティでは、女の子とユース女性が政治活動に従事することは容認されていると考えている⁷⁸。
- プランが調査した女の子の約60%は、オンラインでも対面でも、ジェンダー平等とGBVIに関するキャンペーンを積極的に行っており、その活動が期待以上のプラスの変化をもたらしたと感じている⁷⁹。



ケニアの24歳の活動家が国連加盟国にCEFMUへの対応を要請、スイス © Plan International / Antoine Tardy

ジェンダー平等に関する キャンペーン、提唱活動、プログラム

ユース参加者は、「研修」「提唱活動」「社会キャンペーン」「カづけの取り組み」など、ジェンダー平等と女の子の権利について啓発し、対話を始めたNGOや草の根レベルの組織による取り組みに希望を感じている。

「女の子とユース女性のカづけによってジェンダー不平等と闘うために、さまざまな関係者、特にNGOによる多大な努力は、私たちが長年苦しんできた格差と多くの不公正を是正するでしょう。」

Bakari, 24歳、女性、サハラ以南アフリカ、調査

事実関係

♡ 2020-21年の二国間政府開発援助(ODA)総額の40%がジェンダー平等と女性のカづけを重要な目的としており、4%が主要な目的としている⁸⁰。

♡ 2020~2021年間に、ODAのうち4億5,800万ドルがGBVプログラムに、5億7,400万ドルが女性の権利団体や運動に充てられた⁸¹。

♡ 上位10位のジェンダー平等に資するODA案件のうち、5.56%がジェンダー化された思春期の若者用のものであった⁸²。

♡ 1946年当時は経済社会理事会の協議資格を享受しているNGOは41であったが、現在では6,343である。これらのNGOは、会議、口頭および書面での意見表明、イベントを通じて、国連と加盟国の活動に貢献している⁸³。

私たちは岐路に立っている。今行動すれば、思い描いたジェンダー平等の未来はまだ可能だ。選ぶのはあなただ！



転換期:ジェンダー平等な未来に向けたユースの声

今日の女性と女の子の状況に不満が残るものの、調査参加者のユースが希望を持ち続けていることは明らかである。政府がジェンダーの公約と政策実行を貫き、意思決定にユースを真に参加させれば、ジェンダー平等はまだ実現できると信じているのだ。

- 調査参加者の**78%**が、2054年の世界は現在よりもジェンダー平等になっていると考えている。
- 調査参加者の**75%**が、自身が生きている間にジェンダー平等が達成されると確信している。
- 調査参加者の**90%**が、今後30年間でジェンダー平等の大幅な改善に貢献できると答えている。

彼らの楽観主義は、ジェンダー平等のために闘い、変化を起こしている他のユースを見ていることにもよる。

ユースは、彼らの集団的な力が世界を変革させると信じている。

「女の子がジェンダー平等のために遅く戦い、その戦いがアフリカや世界に良い影響を与えている世界を(今)見えています。将来、世界はもっとジェンダー平等になると信じています。」

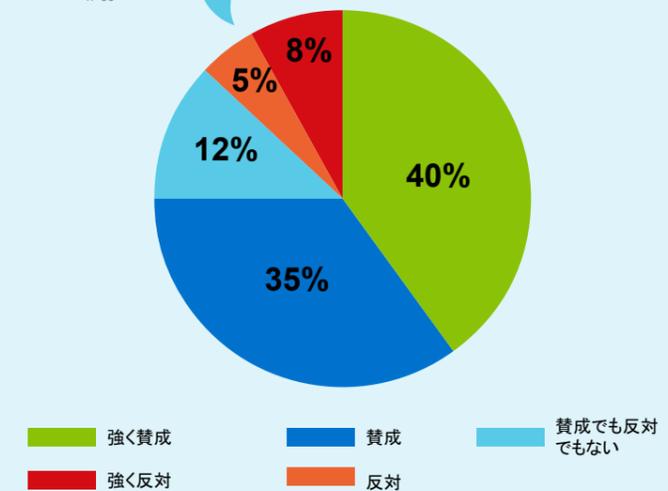
Anika, 17歳、女性、サハラ以南アフリカ、調査

「私は未来の世代、そして私たちが生きている残酷な現実に対してとても楽観的です。最善を望んでいます。実際、私たちの世代が、皆にとってより良い未来のために大きく前進することを信じています。」

Rania, 18歳、女性、中東・北アフリカ、ワークショップ

ユースとして、ジェンダー平等は生きている間に達成されると確信している

n=83



現在と2054年を比べて、世界はジェンダー平等が進んでいると思いますか

n=83



「私たちは全力で挑戦しているので、未来を変えることができるかと確信しています[...]でも、私は悲観的です[...]前進するたびに、少し大きな挫折を感じることもあるからです[...]11の躊躇した小さな前進と一万の後退があるのです。」

Fatima, 22歳、女性、中東・北アフリカ、ワークショップ

未来に対する前向きさは、思春期の女の子やユースの意識的な選択であり、前向きな変化を求める戦いで生き残り、レジリエンスを得るためのツールなのだ。

ユース参加者の大半が(38%)、ジェンダー平等を現実のものとする集団として若い世代を選び、国連(17%)、NGO(14%)、地域コミュニティ(12%)と続き、連邦政府を選んだのはわずか9%だった。

上記のような負の傾向や限られた支援を考えれば、ユースは簡単に燃え尽き、仕事に意気消沈してしまうが、彼らはあえて楽観主義を選ぶ。

「私は楽観的であることにした。」

Aurelia, 22歳、女性、サハラ以南アフリカ、調査

「何事にも自信を持って臨みたいです。何かに取り組んだり、新鮮な気持ちで臨んだり、ただ最善を尽くすことを望んでいて、何が起きても、それはそれとし、少なくとも最善を尽くしたとは言えます。」

Mimi, 23歳、女性、北アメリカ、調査

だが同時に、思春期の女の子やユースは、限定的な公約や 施行機構によって、国連や多国間主義に対する信頼が一段と低下する危険性を感じている。

「未来サミットでは、主に実施機構について話し合うことが重要だと思う。でなければ、国連はあっという間に時代遅れになると思う[...] 未来サミットは、国連の転換点になる可能性もあれば、一種の没落になる可能性もあると思う。」

Nora, 19歳、女性、ヨーロッパ・中央アジア、検証ワークショップ

思春期の女の子やユースはまた、彼らの声や意見が国際的な合意やSDGsの次の改訂版に含まれないことを懸念している。

思春期の女の子やユースにとって、未来サミットは、ジェンダー平等への公約を再確認し、意思決定に有意義に参加できる制度を作る重要な機会である。

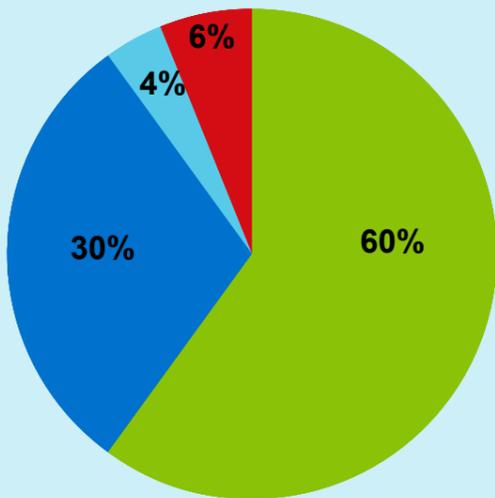
調査参加者の85%が、国連未来サミットの成果は今後30年間にジェンダー平等の大幅な改善を達成すると考えている。

「(SDGsの)達成には多くの時間を要するかもしれませんが、私たちが協力し、私たちの声が届けば、必ず達成できると信じています。私たちの声が重要であり、彼らが私たちの声に耳を傾け、私たちの夢が実現するのを願うばかりです。」

Cecilia, 19歳、女性、東アジア・太平洋、ワークショップ

私には、今後30年間のジェンダー平等の大幅な改善に貢献する力がある

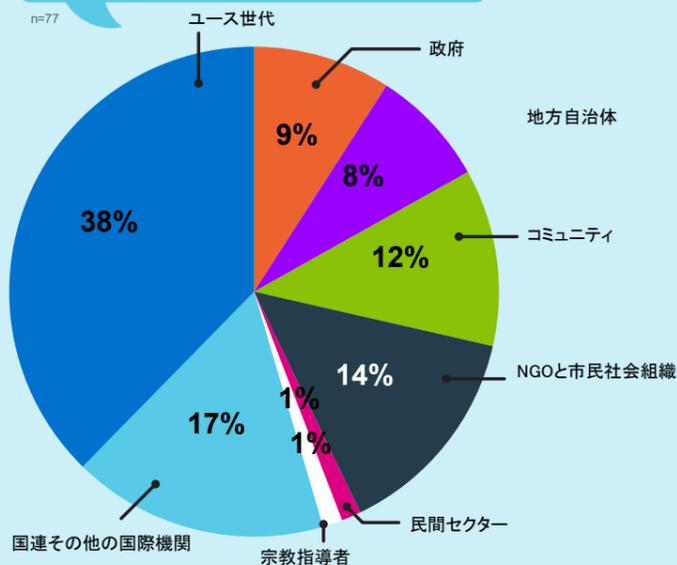
n=83



強く賛成 賛成
賛成でも反対でもない 強く反対

ジェンダー平等を実現するために、誰が最も大きな力を持っていると思うか

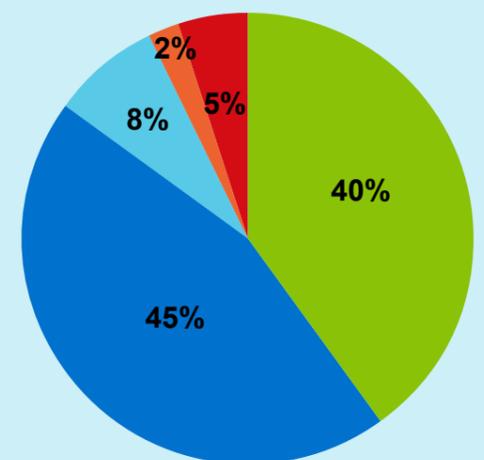
n=77



未来サミットの結果は、今後30年間でジェンダー平等の大幅な改善を達成するだろう

n=83

強く賛成 賛成
賛成でも反対でもない 反対
強く反対



ユースの有意義な参加は、ジェンダー平等に関して政府をより意欲的にし、ユースが思い描く変化を実現するための重要な一歩である。それは法律、政策、プログラムを現在と未来の世代にとって真に効果的なものにする手段として、あらゆる意思決定プロセスにおいて不可欠な要素でなければならない。

「形だけのものが多く、最も疎外され、不当な扱いを受けている女の子の声は未だ届きません。」

Aurelia, 22歳、女性、サハラ以南アフリカ、調査

ユースの声に真に耳を傾け、思春期の女の子やユースにとってアクセスでき、安全な意思決定プロセスを作るには、多くの課題があることは明らかだ。

「意思決定の場にいる人は、形式的に私たちの話を聞くだけで、私たちの提案や意見をほとんど無視しているように感じます。」

Nia, 24歳、女性、サハラ以南アフリカ、ワークショップ

「ユースアドボケートとしての私の声はほとんど届かず、安全でないと感じるし、それは他の多くのアドボケートも同じだと思う。」

Fatima, 22歳、女性、中東・北アフリカ、ワークショップ

政策立案者への提言

「ジェンダー平等は、道徳的な要請であるだけでなく、社会の繁栄、安定、そして全体的な幸福への投資でもある。ジェンダー平等を優先し、推進する政策は、皆にとってより公正・公平で持続可能な未来に貢献します。」

Elizabeth, 18歳、女性、サハラ以南アフリカ、調査

ワークショップでは、ユース参加者が、ジェンダー平等を達成するために政策立案者が何をすべきかを概説し、提言を特定した。彼らはまた、調査における主要な行動についての考えを共有し、ガールズ版「未来への協定」を起草する際の政策立案者への具体的な提言に個々に取り組んだ。以下の提言は、ユース参加者との検証ワークショップで更に洗練されたものである。

私たちは加盟国に対し、以下の提言を実行に移すよう求める

私たちの声は重要だ。

ユースは、形だけの関与ではなく、前向きな未来の共同創造を求めている。



教育とテクノロジー

- ✓ 紛争時や自然災害時を含め、女の子の就学を阻むあらゆる障壁を撤廃し、あらゆる多様な女の子が質の高い無償教育を平等に受けられるようにする。例えば、学校におけるGBVに対処する政策、妊娠中の思春期の女の子や若い母親が学校教育を継続するための特別措置、夜間学校や安全で無料の交通手段などをすべて整備しなければならない。
- ✓ 公的支出の少なくとも15~20%という広く支持されている基準に達するよう、教育省への資源配分を増やすことによって、国の教育財政を拡大する。この拡大は、最も脆弱な人びと、特に疎外された女の子やユースに行き届く質の高い教育に投資するための十分な資金を意味する。これには、より効果的な学習を支援するための教師の継続的な訓練と能力開発のための資金増額も含まれるべきである。
- ✓ ジェンダー平等を促進し、ステレオタイプや偏見に挑戦する、ジェンダー・トランスフォーマティブな教育課程と学習教材を開発・統合する。社会のあらゆる分野における女性や女の子の功績、ステレオタイプを認識し挑戦する方法、男性や男の子を味方として参加させること、包括的性教育、多様性と包摂の重要性などの項目を含むこと。これには、変革する教育サミットの行動要請「教育における/を通じてジェンダー平等と女の子と女性の力づけを促進する」で概説・承認された「ジェンダー・トランスフォーマティブ教育の原則」を統合することも含

まれる。メンターシップ、ロールモデル、体験学習の機会を提供して、女の子のSTEM分野への参加を奨励する。

- ✓ デジタルへのアクセスと接続性における格差に対処し、デジタルスキルと知識を構築する:テクノロジー、AI、ネット接続へのアクセスにおける格差に取り組み、特に低所得層や地方のコミュニティで、障害者の子どもや女の子、女性に不平等な影響を与える。コンピューター、タブレット端末、ネット接続など、手頃な価格でアクセス可能な技術リソースを女の子とその家族に提供する取り組みを拡大する。テクノロジーと情報を効果的、安全かつ倫理的に活用できるデジタルリテラシーのスキルを女の子と男の子に身につけさせ、ネットがもたらす良い影響と潜在的なリスクの両方を理解できるよう支援する。

質の高い無償教育

デジタルリテラシースキル

テクノロジーへの平等なアクセス

教育資金

女の子と女性に対する暴力

- ✓ 家庭内暴力、性暴力、ハラスメント、人身売買、有害な慣行、ネットやテクノロジーが促進するGBVなど、女の子と女性に対するあらゆる形態の暴力を犯罪とする法律を制定・強化・施行する。不処罰に終止符を打ち、加害者が責任を問われるようにし、紛争や紛争後の環境を含め、被害者が司法にアクセスできるようにする。ジェンダーに配慮したアプローチと被害者中心の対応について、警察官、裁判官、検察官に研修を提供する。法執行と司法手続を監督する監視機関を設置し、報告レベルを監視するためのデータを定期的に収集する。
- ✓ 支援サービスと強力な紹介メカニズムの提供。安全なスペース、シェルター、ホットライン、カウンセリング、法的支援、ヘルスケア(メンタルヘルスを含む)、専門的な回復プログラムを含む、アクセスでき、包括的で、ジェンダーに配慮した、秘密厳守の、サバイバー中心の支援サービスを、長期的に持続可能な方法で確立・資金提供する。職業訓練、能力開発、メンタリングの機会を、その背景や状況にかかわらず、全てのサバイバーが利用できるようにすること。
- ✓ 個人が暴力を認識・報告できるよう、教育と啓発を強化する。女の子と女性に対する暴力を助長し、被害者を非難する文化を助長する有害なジェンダー規範と態度に異議を唱えるキャンペーンを実施する。全てのコミュニティ、メディア、教育の場において、敬意と暴力を許さないというメッセージと、サバイバーへの支援を推進する。暴力の兆候を特定し、対処するための研修を、教師、保護者、コミュニティリーダーに提供する。

- ✓ オンラインにおける子どもとユースの保護を優先。ソーシャルメディアが性暴力や虐待、ジェンダーステレオタイプの普及に利用されるのを防ぐため、政府の法律、ネット規制、民間セクターの活動を通じて、堅固な保護と報告の手段を確保する。オンライン外の世界でも、ソーシャルメディアを通じてだけでなく、安全で包摂的なユースに配慮したスペースを作ることで、ユースが交流し、つながるためのさまざまな方法を促進する。
- ✓ 紛争後の環境も含め、紛争地におけるGBVに対する保護を確保する:安全なスペースとサービス、人道支援、法的保護、そして紛争環境におけるジェンダーに配慮したアプローチと女の子と女性の保護に関する平和維持軍、人道支援ワーカー、地域コミュニティへの研修を提供する。
- ✓ 報告の仕組みと参加型データ収集の強化:GBVに対応する標準化された包括的なシステムを確立し、正確で機密性の高い詳細な情報を入手することで、問題の大きさをよりよく理解・監視し、それに対抗する効果的な政策とプログラムを立案する。

報告手段

報告手段

法律の制定・強化・施行

有害な規範に挑戦する

支援サービス

暴力を許さない

思春期の女の子のSRHR

- ✓ **学校の教育課程の中で、包括的なSRH教育を実施する:** 国際基準に準拠しつつも、自国に文脈化された教育課程を開発・実施するために資源を配分し、生殖に関する健康、同意、ジェンダー平等、LGBTQIA+の権利、健全な人間関係、傍観者の介入などの項目を、年齢に対応し、タブーを取り払った非審判的な方法で取り上げる。このような教育は、女の子やユースだけでなく、家族やコミュニティにとっても、誤情報と闘うことを目的としたものでなければならない。
- ✓ **ユースに配慮したSRHサービスへのアクセスの保障:** 地方やサービスが不十分な地域に住む者も含む、思春期の女の子が手頃で包括的なSRHサービスを受けられるよう、認知度を高め、アクセスを保証する。費用、スティグマ、情報不足などの障壁を取り除き、厳格な秘密保持と安全なスペースを創出する。HIVやその他のSTIのリスクがある/発症している女の子のための検査・治療・支援サービスへのアクセスを促進する。
- ✓ **月経の健康と衛生に関する障壁をなくす:** これには、月経衛生に関する広くアクセス可能な情報を提供すること、2030年以降は製品を無料で提供することを目指し、製品の消費税を減免することが含まれる。再利用可能なナプキンや月経カップなど、環境にやさしい月経用品の開発と普及を優先し、環境への影響を減らし、持続可能性を促進する。
- ✓ **家族計画サービスへのアクセスを促進する:** 思春期の女の子を予期せぬ妊娠から守るために、安全な性行為に関する情報や、手頃な価格または無料の避妊具へのアクセスを確保する。すべての場合、特にレイプ被害者に対する中絶を合法化または非犯罪化する。国際人権基準に従って、女の子に安全で合法的な中絶サービスを提供し、中絶後の包括的なケアと支援サービスを提供する。
- ✓ **法定年齢未満の結婚を禁止する法律を強化・施行し、CEFMUの危機に瀕している/その影響を受けている女の子に支援サービスを提供し、貧困や不安などCEFMUの根本原因に取り組むこと**によって、CEFMUと闘う。コミュニティや宗教の指導者、その他の影響力のある人びとと緊密に協力し、この慣行を糾弾し撤廃するよう促す。妊娠中の思春期の若者がスティグマを受けることなく教育を受け続けられるような取り組みを確立する。



家族計画サービスへのアクセス

気候変動

- ✓ **環境政策、気候変動軽減・適応策、保全プロジェクトの意思決定、計画、実施、監視に女の子と女性を積極的に参加させる。** これにより、彼女たちのニーズ、知識、経験が考慮され、より効果的で公平な解決策につながる。ジェンダーバランスのとれた政府間代表団を含め、環境政策に関する関連意思決定機関に女の子と女性の代表が参加できるようにする。
- ✓ **女の子の権利を守り、女の子と女性特有のニーズと課題を認識・対応し、紛争の影響によるものを含め、彼女たちに不平等な影響を与える環境上の不正義に対処する取り組みを支援する、ジェンダーに配慮した気候政策を強化・実施する。** パリ協定のような気候関連の国際的な約束と義務に沿った政策と介入を実施する。土地、水、クリーンエネルギー技術などの資源への公平なアクセスを確保し、自然資源の監督者として、また持続可能な開発の担い手として、女の子と女性を力づける取り組みを支援する。
- ✓ **国際的な融資を増やし、高・中・低所得国間の気候・環境プログラムへの公平な投資を確保する。** 各加盟国は、ガス排出の最大排出国としての役割と責任を認識し、それに応じて軽減策に資金を提供しなければならない。
- ✓ **学校教育課程に環境意識を組み入れ、気候変動の影響に対処するために、脆弱なコミュニティに住む女の子と女性のスキルと知識を強化することによって、環境意識を高め、コミュニティを力づける。** 安全なスペースを提供し、平和的抗議の権利を支持し、女の子主導のグループに資金を提供し、コンテンツ制作やオンラインプラットフォームなどを通じて、女の子主導のさまざまな環境保護活動や啓発活動に可視性を与える。
- ✓ **グリーンスキル、経済的・教育的力づけの強化。** 女の子や女性、先住民族、障害者に対し、グリーンジョブや起業の機会、気候変動に強く、将来に備えた生計や事業に投資するための資金を提供する。持続可能な農業、生物多様性の保全、エコツーリズムを推進し、環境保護と貧困緩和の両方に貢献する女性主導の取り組みを支援する。サバイバルスキルの研修プログラム、収入源の多様化、コミュニティ支援ネットワークの強化など、適応・レジリエンス戦略を推進する。
- ✓ **グリーンテクノロジーと解決策の育成。** クリーンな調理用コンロ、太陽エネルギーシステム、節水装置など、グリーンテクノロジーと解決策の採用と開発を奨励する。これらは、特に低所得国において、家事労働の不平等な負担を担う女の子と女性に大きな利益をもたらす。炭素排出を削減し、天然資源を保護し、特に地方や恵まれていない地域の女の子と女性の生計を向上させる、環境にやさしい製品とサービスへのアクセスを促進する。



政治プロセスへの参加

- ✓ 公共政策と意思決定のあらゆる分野において、多様な背景を持つ女の子と協議し、解決策を共同創造する。加盟国は、女の子と女性の多様な集団から意見を集めるために、上記のすべての介入策において、アクセスでき包摂的な方法で、定期的かつ有意義な協議を実施しなければならない。これには、タウンホールミーティング、フォーカスグループ、調査などが含まれる。また、女の子、ユース、女性のための諮問委員会や協議会を設置し、彼らの人口動態に影響する問題について政策決定者に助言することや、女の子やユースが政府の進捗状況を監視できる、女の子に配慮した説明責任制度を設けることも含まれる。
- ✓ 女の子が政治的リーダーになるのを支援: 女の子と女性がリーダーシップ・スキルを身につけ、政治活動や市民生活に有意義に参加できるようにするプログラムや活動に投資する。これには、メンタリングプログラム、リーダーシップ研修ワークショップ、市民参加と提唱活動の機会などが、地元から国際的なレベルまであらゆるレベルで含まれる。
- ✓ ジェンダー平等推進に取り組む女の子・ユース主導の、そしてコミュニティを基盤とする組織への資金援助と支援を増やす。資金調達のための機会を女の子とユースの団体が利用できるようにし、ドナーが資金提供する額を増やし、障壁を取り除くことで、より多くの団体が女の子とユース主導の活動を支援するための柔軟で多様な複数年の助成金を利用できるようにしなければならない。
- ✓ クォータ制やその他の積極的是正措置を実施。女性が政治的・公的指導的地位に就き、とどまることを阻む制度的障壁を取り除く。代表が不在の場合は、クォータ制を導入するか、育児に関するものも含め、立法府、議会、ユース議会、協議会など、全ての意思決定機関や政治機関における女の子と女性の代表を増やすための政策を導入する。和平交渉への女性の参加も優先されなければならない。

結論

ユース参加者は、ジェンダー平等は私たち全員が目指すべきものだとして強く信じている。有害なジェンダー規範からの解放は、女の子も男の子も、女性も男性も、ありのままにいられるようにし、人としての可能性を最大限に発揮させられると信じている。

国連未来サミットは、ジェンダー平等に対する既存の公約を再確認し、今日と未来の課題により適切に対応するために多国間システムを改革する、世代に一度の機会を提供している。現在の傾向は暗い絵を描いているが、調査に参加した思春期の女の子とユースは、ジェンダー平等と皆にとってより良い未来は達成できると楽観的である — 私たちが今行動すれば。政策立案者は、既存の公約を再確認し、自らの未来に影響する決定にユースを参加させ、行動を貫く必要がある。

「あなたの仕事は、国民の声を聞くことです。

私たちは国民であり、未来です。私たちに耳を傾けてくれますか？

これが私たちの未来のための声なのです。⁸⁴。

本報告書をお読みの皆さんは、世界の各地域から集まった100人超の15～24歳のユースの声を聞いたことになる。彼らの考察と提言は、現在そして未来の世代のために、ユースがどれほど関与し、貴重な貢献ができるかを示している。国連未来サミットに向けて、私たちが共に実現したいと願う未来の共同創造者として、ユースの声と視点を増幅させよう — 私たちの未来のために、私たちの声を。

「私たちがそこに込めたものはすべて、私たちの心、私たちの想像から生まれたものであることが大好きです。何年後には、私たちの希望が現実になると思う。このボードに込めた想像が実現したら、とてもとても興味深い。女の子の未来をより良くするために、私たちができることを全てやり続けるための良い後押しになるでしょう。」。

Tala, 21歳、中東・北アフリカ、ワークショップ



付録:調査方法

本報告書は、2024年3月に以下の4つの参加型未来手法で実施された調査に基づいている。

- **地平線探査:** STEEP-V(社会的、技術的、経済的、政治的、価値観)の枠組みを通して、女性と女の子の未来に影響を与える重要な要素を特定するために、既存の出版物⁸⁵の最初の探索的な文献調査を行った。ユースはまた、ジェンダー平等の未来に不安を感じたり、希望を抱いたりするような、自身のコミュニティ、国、世界における変化について尋ねるオンライン調査を通じて、地平線探査に貢献した。変化は、主要なテーマの下に分類され、分析された。
- **オンライン調査:** プランのユース・ネットワークとユニセフのGlobal Girls Leaders Advisory Groupの15~24歳の女の子に、14の質問(マイクロソフトフォームでスペイン語と英語で利用可)からなる簡単なオンライン調査を実施した。124の回答のデータクリーニングと記述分析は、Stata分析ツールを用いて行われた。参加者の年齢は15~24歳で、20歳以上が74%を占めた。調査参加者の72%が女性、26%が男性、1%がノンバイナリー、1%が回答を控えた。調査参加者は世界の全ての地域を代表しており、そのほとんどがサハラ以南のアフリカ(47%)に住んでおり、次いで中東・北アフリカ(27%)、南アジア(14%)、ラテンアメリカ・カリブ海地域(5%)、ヨーロッパ・中央アジア(5%)、東アジア・太平洋地域(1%)となっている。
- **予測ワークショップ:** 15~24歳の様々なプランのユースグループから44人のユース参加者(ユース男性7人、ユース女性37人)を招き、3時間のオンライン・ワークショップを5回実施(英語4回、スペイン語1回)。調査結果の短いプレゼンテーションの後、若者は futures wheels ツールを使って、ジェンダー平等の未来にとって現在の変化が持つ重要な意味について考えた。続いて瞑想的な想像と探求の実践が行われ、ユース参加者は、ジェンダー平等が達成された2054年への旅を想像した。この望ましいジェンダー平等の未来についてのビジョンを言葉や絵で共有し、Miroを使用して集団的な世界構築ボードを作成した。その後、ユースはバックキャストिंगの実習に参加し、望ましい未来を皆の生きた現実にするために、政策立案者が今日、2030年、2054年の間に取るべき主要な具体的行動を策定した。最後に、ユース参加者は個々に、政策立案者に向けた主要な懸念事項やメッセージを盛り込んだ**ガールズ版「未来のための協定」**を起草した。セッションの最後には、ジェンダー平等の将来に対するユースの楽観論/悲観論と、それに影響を与えるユースの能力を評価するポラックゲームが行われた。ワークショップのデータは、データをコード化し、質的内容分析を用いて分析した。
- **ガールズ版協定検証ワークショップ:** 様々なプランのユースグループ、ユニセフのGlobal Girls Leaders Advisory Group、ユニセフのInnocenti Youth Foresight Fellows から15~24歳の34人のユース参加者(ユース女性30人、ユース男性4人)を招き、90分のオンライン・ワークショップ(全て英語)を4回実施した。ワークショップでは、ユースの声が十分に反映されるよう、**ガールズ版協定**に関するフィードバックを集めた。

倫理、保護、幸福: この調査は、IRBIに登録されているプラン・インターナショナルの倫理審査チームから倫理承認を得た。全てのプロセスは、プランの倫理的MERと保護方針のための枠組みを遵守した。すべての参加者から同意を得、18歳未満の参加者には保護者の同意を得た。参加者には、私たちの意図とデータの使用方法について透明性をもって説明した。調査では個人的な質問はせず、個人的な機密情報も収集しなかった。未来に対する不安感を避けるため、私たちは未来を主体性と力づけの場として提示した。参加者の身元を保護するため、名前はすべて変えてある。

参加型かつ協力的なアプローチ: 調査は、ユニセフの『Youth Foresight Playbook: Designing a Youth-centred Journey to the Future』の10の原則に沿って行われた。私たちは参加型アプローチをとり、ユースを調査方法の合意者、共同研究者、共同ファシリテーターとして協力させ、調査成果物に対するフィードバックを求めた。ワークショップは、参加者のスケジュールに合わせて設定された。ツールは協力的なもので、ユースが尊重され、自分の意見を自由に述べ、正解か不正解かを考えずに自分の考えを試すことができる安全な環境を作った。

世界的な包摂: プラン・インターナショナルは「誰一人都市の推さない(Leave No One Behind Partnership)」⁸⁶の一員として、疎外された集団の声を高めることに尽力している。ユース参加者は、世界の全地域を代表する35カ国超から、多様な背景を持つ者が集まった。技術的なアクセスが限られていたり、特別なニーズがあったりする若者の参加を確実にするため、私たちはデータ・バンドルを提供し、電話で参加できるようにワークショップを設計し、特別なニーズを持つ参加者に追加の支援を提供した。だが、サンプル数が少ないこと、オンラインによるアプローチであること、英語が中心であることから、この調査が世界のユースを代表するものではないことに留意することが重要である。



ガールズ版協定はこちらからダウンロードできる:
https://www.plan-international.jp/activity/pdf/Girls_Pact_for_the_Future_JP.pdf

巻末資料

- 1 United Nations (2024), *Scope of the Summit of the Future*, retrieved 20 March 2024, <https://www.un.org/en/summit-of-the-future>
- 2 United Nations (2024), *Declaration on Future Generations*, retrieved 12 April 2024, <https://www.un.org/en/summit-of-the-future/declaration-on-future-generations>
- 3 United Nations (2024), *Global Digital Compact*, retrieved 12 April 2024, <https://www.un.org/techenvoy/global-digital-compact>
- 4 United Nations (2024), *Pact for the Future: Zero Draft*, retrieved 20 March 2024, https://www.un.org/sites/un2.un.org/files/soft-co-facilitators-zero-draft_pact-for-the-future.pdf
- 5 UN Secretary-General's Speech at the UN SDG Summit opening, retrieved 12 April 2024, <https://youtu.be/mUWov3Zy1bQ?si=yeRpSPNsa1I4yYIj>
- 6 United Nations (2023), *The Sustainable Development Goals Report: Special Edition*, retrieved 20 March 2024, <https://unstats.un.org/sdgs/report/2023/>
- 7 UN Secretary-General's Speech at the UN SDG Summit opening, retrieved 12 April 2024, <https://youtu.be/mUWov3Zy1bQ?si=yeRpSPNsa1I4yYIj>
- 8 Plan International (2023), *Goals Off Target: Accelerating the Sustainable Development Goals with Girls and Young Women*, retrieved 13 March 2024, <https://plan-international.org/publications/goals-off-target/>
- 9 UN Women & Department of Economic and Social Affairs (DESA) (2023), *Progress on the Sustainable Development Goals: The Gender Snapshot 2023*, retrieved 13 March 2024, <https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2023/09/progress-on-the-sustainable-development-goals-the-gender-snapshot-2023>
- 10 United Nations (2023), *The Sustainable Development Goals Report: Special Edition*, retrieved 20 March 2024, <https://unstats.un.org/sdgs/report/2023/>
- 11 UNESCO Global Education Monitoring (2020), *A New Generation: 25 Years of Efforts for Gender Equality in Education. Gender Report*, retrieved 13 March 2024, <https://gem-report-2020.unesco.org/gender-report/>
- 12 UN Women & Department of Economic and Social Affairs (DESA) (2023), *Progress on the Sustainable Development Goals: The Gender Snapshot 2023*, retrieved 13 March 2024, <https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2023/09/progress-on-the-sustainable-development-goals-the-gender-snapshot-2023>
- 13 UN (2023), *Our Common Agenda: Policy Brief 10 - Transforming Education*, retrieved 20 July 2024, <https://www.un.org/sites/un2.un.org/files/our-common-agenda-policy-brief-transforming-education-en.pdf>
- 14 UN Women & Department of Economic and Social Affairs (DESA) (2023), *Progress on the Sustainable Development Goals: The Gender Snapshot 2023*, retrieved 13 March 2024, <https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2023/09/progress-on-the-sustainable-development-goals-the-gender-snapshot-2023>
- 15 Ibid.; Plan International (2023), *Goals Off Target: Accelerating the Sustainable Development Goals with Girls and Young Women*, retrieved 13 March 2024, <https://plan-international.org/publications/goals-off-target/>
- 16 UNICEF Data (2023), *Is an End to Child Marriage within Reach?* retrieved 13 March 2024, <https://data.unicef.org/resources/is-an-end-to-child-marriage-within-reach/>
- 17 Plan International (2022), *SRHR in Adolescence: Insights from the Real Choices, Real Lives Cohort Study*, retrieved 13 March 2024, https://plan-international.org/uploads/2022/07/ATB2922_PlanSRHRSocialNormsReport_June2022_V4-1.pdf
- 18 Tyers-Chowdhury, A., & Binder, G. (2021), *What We Know About the Gender Digital Divide for Girls: A Literature Review*, retrieved 13 March 2024, <https://www.unicef.org/eap/media/8311/file/What%20we%20know%20about%20the%20gender%20digital%20divide%20for%20girls:%20A%20literature%20review.pdf>
- 19 Plan International (2018), *Adolescent Girls in Crisis: Experiences of Risk and Resilience Across Three Humanitarian Settings*, retrieved 13 March 2024, <https://www.plan.org.au/publications/adolescent-girls-in-crisis-global-report/>
- 20 Save the Children International (2023), *Global Girlhood Report 2023: Girls at the Centre of the Storm – Her Planet, Her Future, Her Solutions*, retrieved 13 March 2024, <https://resourcecentre.savethechildren.net/document/global-girlhood-report-2023-girls-at-the-centre-of-the-storm/>
- 21 UNFPA ESARO (2021), *How are Sexual and Reproductive Health and Rights Represented in National Climate Policy?* retrieved 13 March 2024, <https://esaro.unfpa.org/en/publications/how-are-sexual-and-reproductive-health-and-rights-represented-national-climate-policy>; Oishi, S.N. (2023), *Wars and Conflicts and its Impact on Sexual Reproductive Health Rights (SRHR) Among Forcibly Displaced Women of Reproductive Age (15-49 Years): A Scoping Review*, retrieved <http://hdl.handle.net/10361/18903>
- 22 Working Group on Discrimination against Women and Girls (No date), *Gender Equality and Gender Backlash: UN Human Rights Special Procedures*, retrieved 13 March 2024, <https://www.ohchr.org/sites/default/files/Documents/Issues/Women/WG/Gender-equality-and-gender-backlash.pdf>
- 23 Khan, A., Tant, E., & Harper, C. (2023), *Facing the Backlash: What is Fuelling Anti-feminist and Anti-democratic Forces?* retrieved 13 March 2024, <https://www.alignplatform.org/sites/default/files/2024-03/align-framingpaper-backlash-mar24-es.pdf>
- 24 World Economic Forum (2023), *Global Gender Gap Report 2023*, retrieved 13 March 2024, <https://www.weforum.org/publications/global-gender-gap-report-2023/>
- 25 UN (2021), *Our Common Agenda: Report of the Secretary General*, 13 March 2024, https://www.un.org/en/content/common-agenda-report/assets/pdf/Common_Agenda_Report_English.pdf
- 26 例えば、『Our Common Agenda』(国連)、『The Gender Snapshot 2023』(UN Women)、『The Sustainable Development Goals Report 2023: Special Edition』(国連)、『Global Gender Gap Report 2023』(世界経済フォーラム)、Goals Off Target: Accelerating the Sustainable Development Goals with girls and young women(プラン・インターナショナル)。
- 27 UN Women & Department of Economic and Social Affairs (DESA) (2023), *Progress on the Sustainable Development Goals: The Gender Snapshot 2023*, retrieved 13 March 2024, <https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2023/09/progress-on-the-sustainable-development-goals-the-gender-snapshot-2023>
- 28 UN Women (2018), *Young Women in Peace and Security: At the Intersection of the YPS and WPS Agendas*, retrieved 13 March 2024, <https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2018/4/young-women-in-peace-and-security>
- 29 Save the Children International (2023), *Global Girlhood Report 2023: Girls at the Centre of the Storm – Her Planet, Her Future, Her Solutions*, retrieved 13 March 2024, <https://resourcecentre.savethechildren.net/document/global-girlhood-report-2023-girls-at-the-centre-of-the-storm/>
- 30 UNICEF (2017), *27 Million Children Out of School in Conflict Zones – Press Release*, retrieved <https://www.unicef.org/press-releases/27-million-children-out-school-conflict-zones>
- 31 Shanthosh, J. (2023), *Redressing The Balance: Using Human Rights Law to Improve Health for Women Everywhere*, The George Institute for Global Health and the Australian Human Rights Institute University of New South Wales.
- 32 UN Women & Department of Economic and Social Affairs (DESA) (2023), *Progress on the Sustainable Development Goals: The Gender Snapshot 2023*, retrieved 13 March 2024, <https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2023/09/progress-on-the-sustainable-development-goals-the-gender-snapshot-2023>
- 33 United Nations (2023), *The Sustainable Development Goals Report 2023: Special Edition*, retrieved 20 March 2024, <https://unstats.un.org/sdgs/report/2023/>
- 34 Ibid.
- 35 Global Philanthropy Project (2020), *Meet the Moment: A Call for Progressive Philanthropic Response to the Anti-Gender Movement*, retrieved 13 March 2024, <https://globalphilanthropyproject.org/wp-content/uploads/2021/02/Meet-the-Moment-2020-English.pdf>
- 36 Human Right Council (2018), *Report of the Working Group on the Issue of Discrimination Against Women in Law and in Practice*, retrieved <https://digitallibrary.un.org/record/1637427?v=pdf>
- 37 Khan, A., Tant, E., & Harper, C. (2023), *Facing the Backlash: What is Fuelling Anti-feminist and Anti-democratic Forces?* retrieved 13 March 2024, <https://www.alignplatform.org/sites/default/files/2024-03/align-framingpaper-backlash-mar24-es.pdf>
- 38 Plan International (2024), *Goals Off Target: Accelerating the Sustainable Development Goals with Girls and Young Women*
- 39 Tavares, P., & Wodon, Q. (2018), *Ending Violence Against Women and Girls: Global and Regional Trends in Women's Legal Protection Against Domestic Violence and Sexual Harassment*, retrieved 20 March 2024, <https://thedocs.worldbank.org/en/doc/679221517425064052-0050022018/original/EndingViolenceAgainstWomenandGirlsGBVLawsFeb2018.pdf>
- 40 Beckmann, T. (2024), *The Global Femicide Epidemic*, retrieved 20 March 2024, <https://reliefweb.int/report/world/global-femicide-epidemic>
- 41 United Nations Office on Drugs and Crime (2022), *Global Report on Trafficking in Persons*, retrieved 20 March 2024, https://www.unodc.org/documents/data-and-analysis/glotip/2022/GLOTIP_2022_web.pdf
- 42 UNDP (2024), *2024 UNDP Trends Report: The Landscape of Development*, retrieved 13 March 2024, <https://www.undp.org/future-development/publications/2024-undp-trends-report-landscape-development>

- 43 UN Women (2020), *Work with Men and Boys for Gender Equality: A Review of Field Formation, the Evidence Base and Future Direction*, retrieved <https://www.unwomen.org/sites/default/files/Headquarters/Attachments/Sections/Library/Publications/2020/Discussion-paper-Work-with-men-and-boys-for-gender-equality-en.pdf>
- 44 UNICEF (2024), *Female Genital Mutilation (FGM)*, retrieved 20 March 2024, <https://data.unicef.org/topic/child-protection/female-genital-mutilation/>
- 45 UNICEF Data (2023), *Is an End to Child Marriage within Reach?* retrieved 13 March 2024, <https://data.unicef.org/resources/is-an-end-to-child-marriage-within-reach/>
- 46 Working Group on Discrimination against Women and Girls (No date), *Gender Equality and Gender Backlash: UN Human Rights Special Procedures*
- 47 United Nations Statistics Division (2023), *The Sustainable Development Goals Report 2023: Special Edition*, retrieved 13 March 2024, <https://unstats.un.org/sdgs/report/2023/>
- 48 World Health Organisation (2023), *Adolescent and Young Adult Health*, retrieved <https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/adolescents-health-risks-and-solutions>
- 49 United Nations Programme on HIV/AIDS (2019), *Women and HIV: A Spotlight on Adolescent Girls and Young Women*, retrieved 20 March 2024, https://www.unaids.org/sites/default/files/media_asset/2019_women-and-hiv_en.pdf
- 50 United Nations Statistics Division (2023), *The Sustainable Development Goals Report 2023: Special Edition*, retrieved 13 March 2024, <https://unstats.un.org/sdgs/report/2023/>
- 51 Tyers-Chowdhury, A., & Binder, G. (2021), *What We Know About the Gender Digital Divide for Girls: A Literature Review*, retrieved 13 March 2024, <https://www.unicef.org/eap/media/8311/file/What%20we%20know%20about%20the%20gender%20digital%20divide%20for%20girls:%20A%20literature%20review.pdf>
- 52 The Web Foundation (2020), *The Online Crisis Facing women and Girls Threatens Global Progress on Gender Equality*, retrieved <https://webfoundation.org/2020/03/the-onlinecrisis-facing-women-and-girlsthreatens-global-progress-on-gender-equality/>
- 53 Ibid.
- 54 Plan International (2021), *The Truth Gap: How Misinformation and Disinformation Online Affect the Lives, Learning and Leadership of Girls and Young Women*, retrieved 1 April 2024, <https://plan-international.org/uploads/2022/02/sotwgr2021-commsreport-en.pdf>
- 55 The Web Foundation (2020), *The Online Crisis Facing women and Girls Threatens Global Progress on Gender Equality*, retrieved <https://webfoundation.org/2020/03/the-online-crisis-facing-women-and-girls-threatens-global-progress-on-gender-equality/>
- 56 World Economic Forum (2023), *Global Gender Gap Report 2023*, retrieved 13 March 2024, <https://www.weforum.org/publications/global-gender-gap-report-2023/>
- 57 United Nations Statistics Division (2023), *The Sustainable Development Goals Report 2023: Special Edition*, retrieved 13 March 2024, <https://unstats.un.org/sdgs/report/2023/>
- 58 UN Women & Department of Economic and Social Affairs (DESA) (2023), *Progress on the Sustainable Development Goals: The Gender Snapshot 2023*, retrieved 13 March 2024, <https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2023/09/progress-on-the-sustainable-development-goals-the-gender-snapshot-2023>
- 59 Ibid.
- 60 United Nations Statistics Division (2023), *The Sustainable Development Goals Report 2023: Special Edition*, retrieved 13 March 2024, <https://unstats.un.org/sdgs/report/2023/>
- 61 Tyers-Chowdhury, A., & Binder, G. (2021), *What We Know About the Gender Digital Divide for Girls: A Literature Review*, retrieved 13 March 2024, <https://www.unicef.org/eap/media/8311/file/What%20we%20know%20about%20the%20gender%20digital%20divide%20for%20girls:%20A%20literature%20review.pdf>
- 62 UN (2021), *Our Common Agenda: Report of the Secretary General*, 13 March 2024, https://www.un.org/en/content/common-agenda-report/assets/pdf/Common_Agenda_Report_English.pdf
- 63 Malala Fund. (2021), *A Greener, Fairer Future: Why Leaders Need to Invest in Climate and Girls' Education*, retrieved https://assets.ctfassets.net/0oan5gk9rqbh/OFqutQPKIFoi5IfY2iwFC/6b2fffd2c893ebdebee60f93be814299/MalalaFund_GirlsEducation_ClimateReport.pdf
- 64 Save the Children International (2023), *Global Girlhood Report 2023: Girls at the Centre of the Storm – Her Planet, Her Future, Her Solutions*, retrieved 13 March 2024, <https://resourcecentre.savethechildren.net/document/global-girlhood-report-2023-girls-at-the-centre-of-the-storm/>
- 65 UN Women & Department of Economic and Social Affairs (DESA) (2023), *Progress on the Sustainable Development Goals: The Gender Snapshot 2023*, retrieved 13 March 2024, <https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2023/09/progress-on-the-sustainable-development-goals-the-gender-snapshot-2023>
- 66 Ibid.
- 67 Save the Children International (2023), *Global Girlhood Report 2023: Girls at the Centre of the Storm – Her Planet, Her Future, Her Solutions*, retrieved 13 March 2024, <https://resourcecentre.savethechildren.net/document/global-girlhood-report-2023-girls-at-the-centre-of-the-storm/>
- 68 UNDP (2024), *2024 UNDP Trends Report: The Landscape of Development*, retrieved 13 March 2024, <https://www.undp.org/future-development/publications/2024-undp-trends-report-landscape-development>
- 69 Ibid.
- 70 UN Women & Department of Economic and Social Affairs (DESA) (2023), *Progress on the Sustainable Development Goals: The Gender Snapshot 2023*, retrieved 13 March 2024, <https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2023/09/progress-on-the-sustainable-development-goals-the-gender-snapshot-2023>
- 71 Plan International (2018), *Adolescent Girls in Crisis: Experiences of Risk and Resilience Across Three Humanitarian Settings*, retrieved 13 March 2024, <https://www.plan.org.au/publications/adolescent-girls-in-crisis-global-report/>
- 72 UNESCO Global Education Monitoring (2020), *A New Generation: 25 Years of Efforts for Gender Equality in Education*. Gender Report. retrieved 23 March 2024, <https://gem-report-2020.unesco.org/gender-report>
- 73 UNESCO (2023), *Progress on Girls' Access to Education: What the New UNESCO Data Reveals*, retrieved <https://www.unesco.org/en/articles/progress-girls-access-education-what-new-unesco-data-reveals>
- 74 UNICEF Data (2022), *Gender Disparities in Education*, retrieved 13 March 2024, <https://data.unicef.org/topic/gender/gender-disparities-in-education/>
- 75 UN Women & Department of Economic and Social Affairs (DESA) (2023), *Progress on the Sustainable Development Goals: The Gender Snapshot 2023*, retrieved 13 March 2024, <https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2023/09/progress-on-the-sustainable-development-goals-the-gender-snapshot-2023>
- 76 UN Women (2023), *Women in Politics 2023*, retrieved <https://www.unwomen.org/sites/default/files/2023-03/Women-in-politics-2023-en.pdf>
- 77 Plan International (2022), *Equal Power Now: Girls, Young Women and Political Participation*, retrieved <https://plan-international.org/uploads/2022/10/SOTWGR-2022-EN-Final-SD.pdf>
- 78 Ibid.
- 79 Plan International (2023), *Turning the World Around: Girl and Young Women Activists Leading the Fight for Equality*, retrieved 13 March 2024, <https://plan-international.org/publications/turning-world-around/>
- 80 OECD (2023), *Official Development Assistance for Gender Equality and Women's Empowerment: A Snapshot*, retrieved 20 March 2024, <https://www.oecd.org/dac/snapshot-oda-gender-2023.pdf>
- 81 Ibid.
- 82 Devonald, M., Guglielmi, S. & Jones, N. (2023), *Investing in Adolescent Girls: Mapping Global and National Funding Patterns From 2016 – 2020*, London: Gender and Adolescence: Global Evidence.
- 83 United Nations Department of Economic and Social Affairs (2024), *Civil Society Plays Crucial Role to Help Realize the Global Goals*, retrieved 12 April 2024, <https://www.un.org/en/desa/civil-society-plays-crucial-role-help-realize-global-goals>
- 84 Plan International (2024), *Girls Pact for the Future: Youth Reimagining a Gender-Equal Future*, <https://plan-international.org/girls-pact>
- 85 国連、UNICEF、UN Women、UNFPA、UNDP、世界銀行、世界経済フォーラム、Equal Measures 2030 などの開発/人道支援機関や国際機関からの情報源は、データの統合性、方法論的一貫性、中立性に基づいて審査された。
- 86 「誰一人取り残さない。」パートナーシップは、SDGsの実施と公共政策が、取り残された人びとの声を聞き、それを数えることで、彼らに対して包括的で説明責任を果たすことを目指している。プラン・インターナショナルは、疎外された集団に関するデータギャップを埋めるための拡張可能な解決策を提供するために連携している100の組織のひとつである。詳しくは<https://icscentre.org/our-work/leave-no-one-behind/>を参照。



Until we are all equal

unicef 
for every child

プラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利と女の子の平等を推進する独立した開発・人道団体である。私たちは、すべての子どもの力と可能性を信じているが、それが貧困、暴力、排除、差別によってしばしば抑圧されていることを知っている。そして、その影響を最も受けているのは女の子なのだ。

子ども、ユース、支援者、パートナーとともに、私たちは公正な世界を目指し、女の子や脆弱な子どもが直面する課題の根本原因に取り組んでいる。私たちは、子どもが生まれてから大人になるまで、彼らの権利を支援し、子どもが危機や逆境に備え・対応できるようにする。私たちの広がり、経験、知識を活用し、地域、国、そして世界レベルで実践と政策の変革を推進する。

85年以上にわたり、私たちは80カ国超で全ての子どもたちの生活を変えるために、決意ある楽観主義者を結集してきた。

皆が平等になるまで、私たちは止まらない。

謝辞

調査は、Lucia Rost博士、Thays Prado、Anya Gass、Madeleine Askhamによって行われた。報告書は、Thays Prado ([Feminist Futures](#)) と Lucia Rost博士 (プラン・インターナショナル) が執筆し、Sharon Gouldsが編集を、Amanda legli Techが調査協力を行った。ガールズ版協定の策定は、Anya GassとMadeleine Askhamが主導した。

何よりもまず、調査やワークショップで時間と考えを共有してくれたユース、そしてツールや報告書へのフィードバックを提供し、ワークショップの進行を手伝ってくれたユース共同調査員に感謝したい。また、Anya Gass、Madeleine Askham、Rosamund Ebdon博士、Danny Plunkett、Anna MacSwan、Nikita Shrubsole、Kathleen Sherwin、Jacqueline Gallinetti博士からも貴重なフィードバックとサポートをいただいた。ユニセフの同僚、特にShai Naides、Ruth Graham-Goulder、Fisayo Oyewale、Mina Naseem Niazi、Marcy Levy、Adam Sharpeの支援に感謝し、共同進行役のAbril Chimal、Lena Tünkens、Jill Van den Bruleに感謝する。

本報告書で使用している写真は、調査参加者の写真ではない。

FEMINIST
FUTURES

Plan International

Global Hub

Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

Tel: +44 (0) 1483 755155

Fax: +44 (0) 1483 756505

E-mail: info@plan-international.org



plan-international.org



facebook.com/planinternational



twitter.com/planglobal



instagram.com/planinternational



linkedin.com/company/plan-international



youtube.com/user/planinternationaltv